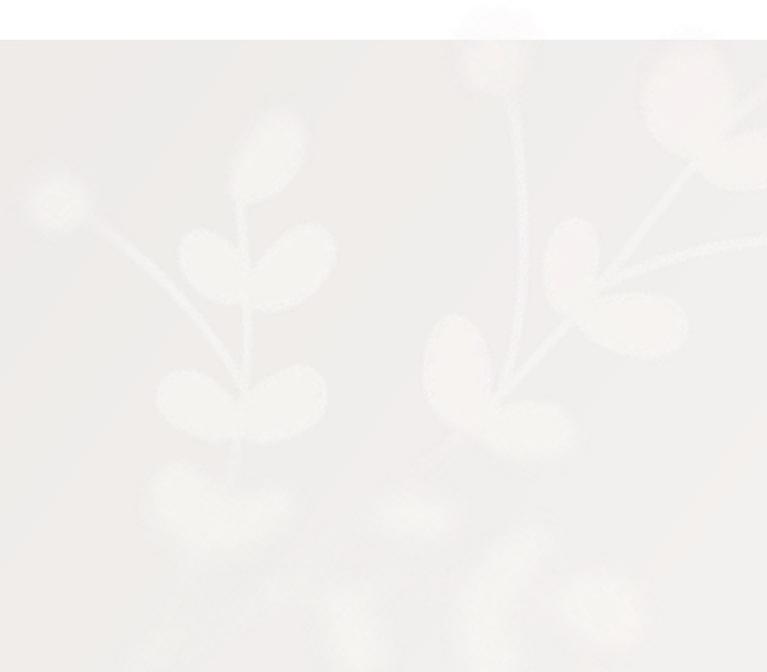


第2次池田市教育振興基本計画

推進プラン 2024～2027

池田市教育委員会



あいさつ 目次

池田市に暮らすすべての人々が、生涯にわたり学ぶ喜びを持ち、心身ともに輝き続けることができるよう、第2次池田市教育振興基本計画をもとに、各施策の方向性と具体的な目標を示すため、ここに推進プランを策定しました。「教育のまち池田」が描くWell-beingの実現に向けて、様々な施策を一体的に進めて参ります。皆様におかれましては、本市のめざす教育に、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

池田市教育委員会

TABLE OF CONTENTS

- 01 基本コンセプト
- 02 本推進プランの概要
- 03 計画の基本構想
- 04 評価指標設定の考え方
- 05 評価指標の設定
- 06 各政策における目標設定

01 基本コンセプト

「教育のまち池田」が描く Well-being

池田市で学ぶすべての子どもたち一人ひとりの「今」を教育の力で「幸せ」にすること

その「幸せな今」の積み重ねにより「幸せな未来」を創造すること

そして、子どもたち一人ひとりのその幸福感を家庭や地域、社会へと広げ

将来にわたり世代を超えて循環していく「幸せな池田の未来像」を描いていくこと

その先に

「笑顔あふれる豊かなくらしを未来につなぐ みんなが大好きなまち池田」が
創造されていくものと信じます。

一人ひとりが抱く幸福感は実に多様です。

偏った画一的な教育ではなく

一人ひとりの個性や可能性を最大限生かし伸ばす教育へ

Well-beingを柱とした学習者主体の教育観を池田市全体で共有し

教育の力で個人と社会の幸福感を創造していきます。



02 本推進プランの概要

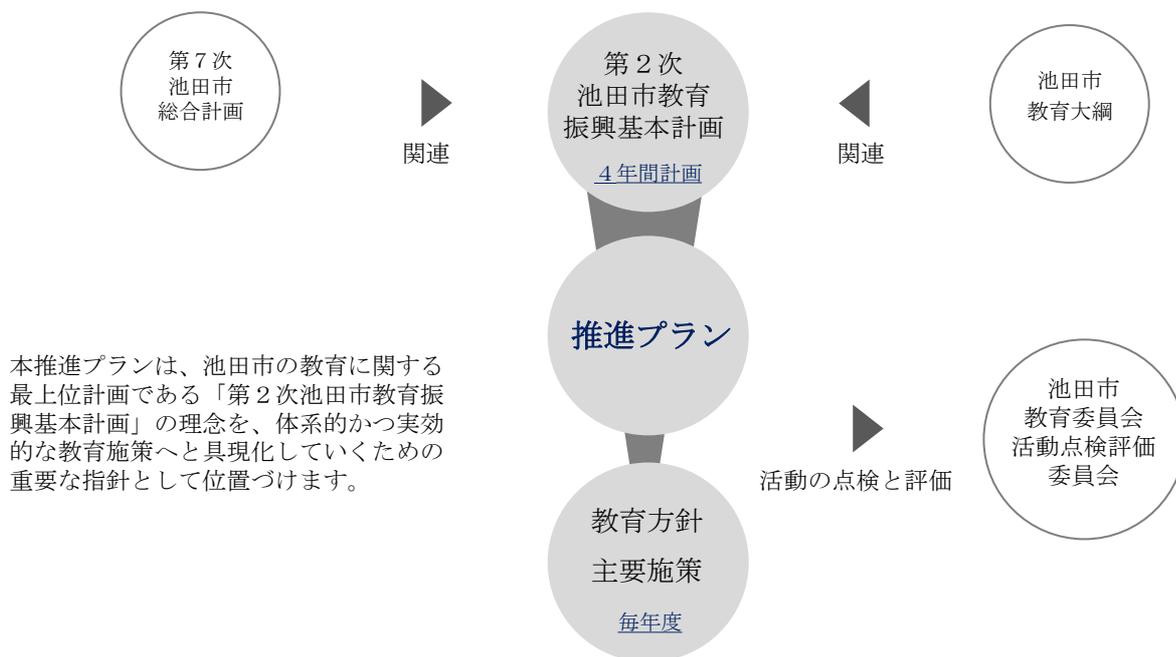
趣旨

本推進プランは、「第2次池田市教育振興基本計画」の実現に向けて、教育のまち池田が描くWell-beingの具体像を示し、施策の方向性と評価指標を定めるものです。本推進プランの推進状況については、池田市教育委員会活動点検評価委員会において、毎年度、点検と評価を実施することで、取組みの精査、改善及び発展に努めます。

位置づけ

池田市の教育に関する計画は、下図のとおり「第2次池田市教育振興基本計画」→「推進プラン（本書）」→「教育方針・主要施策」による3つの階層で構成しています。「第2次池田市教育振興基本計画」を、本市における教育の最上位計画として位置づけ、「推進プラン」と毎年度作成する「教育方針・主要施策」にて、計画の具現化を図っていきます。

池田市の教育に関する計画



03 計画の基本構想

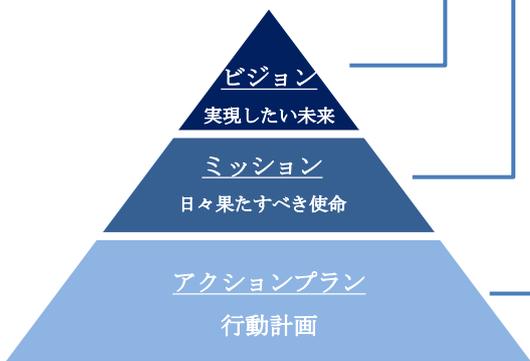
教育の力で個人と社会の**幸福感**を創造する

池田市が描くWell-beingの未来像は、一人ひとりに応じた「幸福感」に支えられるものです。一人ひとりに応じた学習者主体の教育観を共有し、あらゆる学習機会において「学ぶ喜び」を創出する中で、豊かな未来を描き切り拓いていくことができる力を育んでいきます。

学ぶ喜びの中で**創造性**と**実践力**を育み
その**創造性**と**実践力**を生かす中でまた**学ぶ喜び**
を創出する教育の実現

4つの**基本方針**で**16**の**政策目標**を整理

- 1 【育む】 時代の変化に対応した資質・能力の育成
- 2 【伸ばす】 すべての可能性を伸ばす環境の構築
- 3 【支える】 安心して学び合える魅力ある学校園づくり
- 4 【拡げる】 家庭・地域・社会における主体的な学びの推進



Well-beingの具現化を図る**16**の政策目標

Well-beingの向上を最上位目標に位置づけることで、価値観や目的を明確にし、取組みの一体的な推進につなげていきます。

基本方針 **1** 【育む】

- I 確かな学力の育成
- II 豊かな心と健やかな体の育成
- III 未来を切り拓く力の育成
- IV 社会形成能力の育成

基本方針 **2** 【伸ばす】

- I 一人ひとりに寄り添う支援教育
- II 学びの場の保障と充実
- III 幼児教育の発展的充実
- IV 一貫教育による学びの連続性

基本方針 **3** 【支える】

- I 教職員の資質・能力の向上
- II 子どもの安全を守る体制づくり
- III 教育の質を高める教育環境の整備
- IV 子どもの健康保持増進

基本方針 **4** 【拡げる】

- I 家庭・地域の教育力向上
- II 生涯を通じた学びの推進
- III 社会教育・スポーツ活動の推進
- IV 歴史・文化遺産の保存と活用

04 評価指標設定の考え方

定量評価による指標設定でWell-beingを可能な限り可視化

Well-beingの指標設定においては、その概念が個の幸福感を中心としており、主観的な側面が強いことから、個人の感情や認識、経験等を直接測定する主観指標を重視します。また、Well-beingを構成する要素は多面的かつ曖昧さをもつことから、多様な観点から包括的に指標を定め、定量的指標により可能な限り数値を用いて可視化することを大切にします。

A

子どものWell-beingに関する状態

教育に関連するWell-beingの構成要素について、意識調査を基にした主観指標により、子どものWell-beingの状態を可視化します。この指標の共有を通して、体系的かつ一体的な施策の展開へとつなげます。

B

子どもの学び方とWell-being

Well-beingの実現に向けて教育が果たすべき使命は、「学ぶ喜び」の創出であると考えます。定量的な指標を明確に定めることで、池田市がめざす学びの在り方の方向性を示すとともに、評価・改善に生かしていきます。

C

教育環境とWell-being

子どもの安全管理を根幹に、子どもの健康、時代のニーズに対応する整備環境、人的環境に関わる指標設定により、教職員の働き方を含む教育環境の充実を図り、学校におけるWell-beingを支えます。

D

生涯学習とWell-being

生涯にわたり学び続けることができる社会教育の充実は、Well-beingの実現に密接不可分です。学ぶ機会の充実をめざすための成果指標を定め、学ぶ喜びを感じることができる機会の創出をめざします。

各政策における目標設定

上記A～Dに示した評価指標の向上を図るため、各政策目標に応じた成果指標及び活動指標を定め、各施策の進捗を把握するための視点とするとともに、毎年度実施する教育委員会の活動に関する点検及び評価のための指標として活用します。各政策目標における指標設定においては、定性的指標も適切に取り入れることで、より実効的な評価へとつなげます。

05 評価指標の設定

A 子どものWell-beingの状態

教育の力で個人と社会の豊かさを創造する

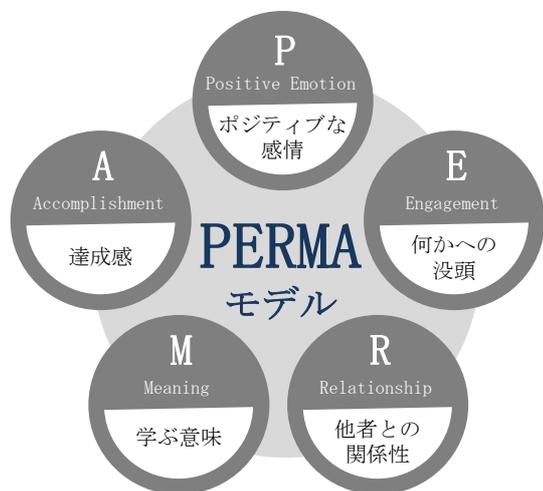
教育に関連するWell-beingの構成要素を、獲得的要素、協調的要素、環境的要素に分類し、それぞれの観点から子どもの状態を可視化します。各施策の一体的な推進を図る中で、多様な観点から包括的に子どものWell-being向上をめざします。

| 項目 | 質問内容 | 校種 | 現状 | 目標 (R9年度) |
|---------|-------------------------------------|----|---------------|-----------|
| 幸福感 | 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか | 小 | 49.9% (91.9%) | 54.9% |
| | | 中 | 35.6% (82.3%) | 45.9% |
| 獲得的要素 | | | | |
| 自己肯定感 | 自分には良いところがあると思いますか | 小 | 43.4% (83.1%) | 47.6% |
| | | 中 | 26.1% (74.8%) | 43.2% |
| 自己実現 | 将来の夢や目標を持っていますか | 小 | 55.8% (76.9%) | 65.8% |
| | | 中 | 31.4% (57.1%) | 44.4% |
| 協調的要素 | | | | |
| 協調性 | 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか | 小 | 31.8% (79.2%) | 37.0% |
| | | 中 | 27.1% (72.3%) | 37.2% |
| 社会貢献意識 | 人の役に立つ人間になりたいと思いますか | 小 | 74.4% (96.6%) | 78.4% |
| | | 中 | 67.7% (90.8%) | 76.3% |
| 環境的要素 | | | | |
| 安心感 | 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか | 小 | 38.8% (73.0%) | 43.4% |
| | | 中 | 23.4% (61.8%) | 36.2% |
| いじめへの意識 | いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか | 小 | 80.1% (96.1%) | 87.6% |
| | | 中 | 69.0% (89.3%) | 85.3% |

「令和5年度全国学力・学習状況調査」において強い肯定を示した児童・生徒の割合にて現状及び目標を設定
 ※()内には緩やかな肯定を含む肯定意識割合を参考値として表示

05 評価指標の設定

B 子どもの学び方とWell-being



学ぶ喜びを創出する教育

学ぶ喜びを創出する学び方として、マーティン・セリグマン博士によって提唱されたPERMAモデルを参考に項目を定め、子どもたちの学びに対する受け止めを可視化します。4年間の計画の中で、子どもたちが学ぶ喜びを実感する学校教育をめざします。

| 項目 | 質問内容 | 校種 | 現状 | 目標 (R9年度) |
|----------------------------------|---|----|---------------|-----------|
| ポジティブな感情 Positive emotion | | | | |
| P | 学校に行くのは楽しいと思いますか | 小 | 55.0% (88.4%) | 59.8% |
| | | 中 | 40.9% (77.5%) | 48.3% |
| 何かへの没頭 Engagement | | | | |
| E | 5年生(中学2年生)までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか | 小 | 31.2% (80.5%) | 40.5% |
| | | 中 | 26.4% (79.4%) | 40.4% |
| 他者との関係性 Relationship | | | | |
| R | 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか | 小 | 37.2% (82.2%) | 48.6% |
| | | 中 | 28.8% (76.1%) | 44.3% |
| 学ぶ意味 Meaning | | | | |
| M | 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか | 小 | 40.3% (83.1%) | 49.0% |
| | | 中 | 23.2% (71.3%) | 34.0% |
| 達成感 Accomplishment | | | | |
| A | 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか | 小 | 33.4% (79.0%) | 41.0% |
| | | 中 | 22.7% (69.2%) | 33.1% |

「令和5年度全国学力・学習状況調査」において強い肯定を示した児童・生徒の割合にて現状及び目標を設定
※()内には緩やかな肯定を含む肯定意識割合を参考値として表示

05 評価指標の設定

C 教育環境とWell-being

豊かな教育環境で学校園のWell-beingを支える

「子どもの安全・安心・健康」を豊かな学校教育環境の根幹として位置づけ指標を定めるとともに、「教育の質的向上」を図る人的環境及び学習環境、地域・社会との協働の観点から、学校におけるWell-beingを支える環境的側面を可視化します。子ども、教職員が共に豊かさを感じられる環境構築をめざします。

| 項目 | 内容 | めざす姿 | | |
|-----------------|--|------|---|-----------|
| 安全・安心・健康 | | | | |
| 市立学校園の安全・安心 | 園児・児童・生徒にとって安全・安心な学校園の教育環境 | 全校 | 教職員をはじめ、地域・家庭・社会において、安全に関する高い意識が醸成され、学校施設環境の整備、人的環境を含め、組織的かつ実効的な安全管理体制を構築することで、子どもたちが安心して学ぶことができる学校園環境をつくる。 | |
| 豊かな学校園給食 | 魅力的な給食の提供による栄養の確保と楽しい時間の創出 | 全校 | 栄養バランスの取れた献立に加え、地域の特色や季節感を感じられるメニュー等、魅力的な給食を提供することで、成長に必要な栄養の確保と質の向上を図り、子どもたちにとって豊かで楽しい給食の時間をつくる。 | |
| 項目 | 内容 | 校種 | 現状 | 目標 (R9年度) |
| 教育の質的環境 | | | | |
| ICT活用環境 | 「コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか」への強い肯定意識割合 <small>全国学力・学習状況調査学校質問紙より</small> | 全校 | 53.3% | 100% |
| 地域と学校の協働 | 「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか」への強い肯定意識割合 <small>全国学力・学習状況調査学校質問紙より</small> | 全校 | 13.3% | 100% |
| 教員の受容的風土 | 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」への強い肯定意識割合 ※ ()内は緩やかな肯定含む肯定割合 <small>全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙より</small> | 小 | 54.8% (91.0%) | 58.0% |
| | | 中 | 32.1% (88.8%) | 44.7% |
| 教職員の業務環境 | | | | |
| 教職員の業務環境 | 月45時間以上時間外勤務割合 | 小 | 23.1% | 15.0% |
| | | 中 | 44.5% | 30.0% |

05 評価指標の設定

D 生涯学習とWell-being

生涯にわたり学び続ける機会の創出

各社会教育施設の利用状況を中心的な指標として、生涯にわたり学び続ける機会の豊かさを可視化します。留守家庭児童会及びこども会等の子どもの居場所づくりと併せて、あらゆる学習機会において学ぶ喜びを創出できる生涯学習をめざします。

| 項目 | 前年 (R4年度) | 増減率 | 現状 (R5年度) | 目標 (R9年度) |
|--|-----------|------|-----------|-----------------|
| 社会教育施設等の利用状況 <small>※事務事業評価に準ずる</small> | | | | |
| 中央公民館 | 64,446人 | 108% | 69,676人 | 75,000人 |
| 図書館 | 388,080人 | 108% | 419,537人 | ※419,500人 |
| 石橋図書館 | 170,170人 | 106% | 180,882人 | ※181,000人 |
| 歴史民俗資料館 | 18,555人 | 94% | 17,507人 | 19,000人 |
| 五月山児童文化センター | 23,565人 | 110% | 25,950人 | 27,000人 |
| 水月児童文化センター | 14,945人 | 100% | 14,940人 | 18,000人 |
| 児童館 | 12,337人 | 110% | 13,590人 | 15,000人 |
| くれは音楽堂 | 20,983人 | 62% | 12,962人 | 25,000人 |
| 総合スポーツセンター | 89,378人 | 98% | 87,712人 | 100,000人 |
| 五月山体育館 | 199,248人 | 121% | 241,681人 | 260,000人 |
| 夫婦池テニスコート | 12,855人 | 100% | 12,914人 | 15,000人 |
| 猪名川運動場 | 119,991人 | 102% | 122,930人 | 125,000人 |
| 空港緑地グラウンド | 10,320人 | 96% | 9,860人 | 12,000人 |
| 地域における子どもの居場所 | | | | |
| 留守家庭児童会登録人数 | 840人 | 108% | 909人 | 対象学年における希望児童全加入 |
| こども会(小学生)加入率 | 12.9% | 100% | 12.9% | 15.0% |

06 各政策における目標設定

TABLE OF CONTENTS

1 【育む】-I

確かな学力の育成

2 【育む】-II

豊かな心と健やかな体の育成

3 【育む】-III

未来を切り拓く力の育成

4 【育む】-IV

社会形成能力の育成

5 【伸ばす】-I

一人ひとりに寄り添う支援教育

6 【伸ばす】-II

学びの場の保障と充実

7 【伸ばす】-III

幼児教育の発展的充実

8 【伸ばす】-IV

一貫教育による学びの連続性

9 【支える】-I

教職員の資質・能力の向上

10 【支える】-II

こどもの安全を守る体制づくり

11 【支える】-III

教育の質を高める教育環境の整備

12 【支える】-IV

こどもの健康保持増進

13 【拓げる】-I

家庭・地域の教育力向上

14 【拓げる】-II

生涯を通じた学びの推進

15 【拓げる】-III

社会教育・スポーツ活動の推進

16 【拓げる】-IV

歴史・文化遺産の保存と活用



確かな学力の育成

施策① 体験・経験を重視した教育課程の編成

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|--|--|---|--|
| | 児童・生徒が、地域社会、自然、文化などと直接触れ合う経験や体験の機会を確保するとともに、体験や経験が生かされた学習活動の充実を図り、魅力ある学校づくりをめざす。 | | | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | |
| 定量 | 児童・生徒アンケート「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する強い肯定意識の割合 | 現状（令和5年度） 小学校 55.0% 中学校 40.9% | 目標（令和9年度） 小学校 59.8% 中学校 48.3% | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の実情に応じて設定された教育課題に対する研究を推進し、教育効果の高い魅力ある学校づくりの実現をめざす。 ・各校における研究推進の成果を公開する機会を通して、教職員の学び続ける態度を醸成し、教育の質的向上を図る。 ・児童・生徒の多様な体験や経験の機会を確保するとともに、充実した学びとなるよう学習環境づくりを進める。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 市立学校におけるカリキュラム・マネジメントの充実 | 指導と評価の一体化をもとに、教育効果の高い魅力ある学校づくりを推進するカリキュラムが作成されているか。 | |
| | 定性 | 研究成果の公開 | 各校が研究の成果を公開することで、市内の教職員が共に学び合える機会を創出できているか。 | |
| 定性 | 体験的な学びの充実 | 専門性の高い外部指導者の積極的な活用や魅力的な校外学習等、児童・生徒の豊かな体験活動を計画的に実施できているか。 | | |

施策② 令和の日本型学校教育の研究

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|---|-------------------------------------|---|--|
| | 令和の日本型学校教育においては「一人ひとりの児童・生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、持続可能な社会の創り手となることができるようになることが必要である」とある。このような資質・能力の育成に向け、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」や「教科等横断的な視点から教育課程の編成・充実」等、各校での取り組みを推進する。 | | | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | |
| 定量 | 児童・生徒アンケート「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」に対する強い肯定意識の割合 | 現状（令和5年度） 小学校 40.3% 中学校 23.2% | 目標（令和9年度） 小学校 49.0% 中学校 34.0% | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・令和の日本型学校教育における資質・能力の育成に向けて、実践的な授業研究の推進を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 令和の日本型学校教育の研究及び実践 | 各校において研究活動が進められるとともに、教育課程の編成や授業改善が実施されているか。 | |
| | | | | |
| | | | | |

めざす姿

すべての子が学ぶ喜びを感じる魅力的な授業づくりで、
子どもの豊かな学びを創造します。

重要
ワード

#教育課程の編成

#個別最適な学び

#協働的な学び

#主体的・対話的で深い学び

#基礎学力

施策③ 基礎学力の向上

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | |
|------|---|---|---|
| | 一人ひとりの課題に応じたきめ細かな指導の充実を図るとともに、授業時間以外での学習機会を保障することで、基礎学力の確実な定着をめざす。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| 定量 | 全国学力・学習状況調査における全国平均正答数を上回る児童・生徒の割合 | <u>現状（令和5年度）</u> 小学校 57.0% 中学校 58.5% | <u>目標（令和9年度）</u> 小学校 67.0% 中学校 68.5% |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの課題に応じた、適切な指導の充実を図る。 放課後における学習機会の充実を図り、基礎学力の定着をめざす。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| | 定性 | 市立学校における適切な学習支援 | 数値化することができない育ちや内面を捉えるなど、子ども理解の研鑽を重ね、適切な学習支援の充実を図ることができているか。 |
| | 定量 | 児童・生徒アンケート「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」に対する強い肯定意識の割合 | <u>現状（令和5年度）</u> 小学校 51.2% 中学校 36.0% |

施策④ 表現力を生かした学習の充実

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|---|---|---|-------------------------|
| | 時代の変化に対応した資質・能力として、豊かな表現力の育成が求められる。子どもたちが表現する場や相互に高め合う機会を設けるとともに、音楽教育活動等への支援体制を構築し、各校園の表現に関わる教育の充実と発展をめざす。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 子どもたちの表現力を高める学習の充実 | 市立学校園が参加する連合行事の開催や、音楽教育活動への支援等、子どもたちの表現力を高める学習環境づくりが進められているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 音楽・クラブ音楽、図画工作、陸上競技等、子どもたちが表現する場や相互に高め合う機会を設ける。 音楽鑑賞を通して音楽への関心を高め、音楽的感性を育む。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 市立学校園連合行事の実施 | 連合行事の継続した実施により、各校園の表現に関わる教育活動の充実を図ることができているか。 | |
| | 定量 | 音楽鑑賞会を実施する小・義務教育学校数 | <u>現状（令和5年度）</u> 5校 | <u>目標（令和9年度）</u> 10校 |



豊かな心と健やかな体の育成

施策① 人権教育を基盤とした学校園づくり

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|--|--|---|--------------------|
| | 近年子どもが、インターネット上で偏見や差別に出会うことが多くなっている。またSNS上での人権侵害事象も多く生起している。子どもが社会の差別に出会ったときに、根拠を持って間違いを指摘し、自他の人権を守るための力をつける取組みを実施していくことが求められる。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 人権教育の視点を大切にした教育活動の実施 | 教職員の人権課題に関する正しい知識・理解のもと、全ての教育活動が人権教育の観点をふまえて実施され、子どもの人権感覚を育むものとなっているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 外部団体と連携し、人権教育に関する実践を共有・発信し、学校園における人権教育の充実を図る。 市立学校園の教職員が人権課題に関する正しい知識を得て、実践につなげることができる研修機会の充実を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 人権教育の実践の共有・発信 | 優れた人権教育に係る実践を共有・発信することで、各校園の取組みが改善されているか。 | |
| | 定量 | 研修の参加者アンケート満足度（強い肯定の割合） | 現状（令和5年度） 47.1% | 目標（令和9年度） 60.0% |

施策② 心に響く道徳教育の深化

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|---|---|---------------------------------------|--|
| | 学校教育全体で取り組む道徳教育を推進し、児童・生徒の体験や経験を活かした、心に響く道徳教育の深化をめざす。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 市立学校における道徳教育の発展的充実 | 学校教育全体で取り組む道徳教育の質的向上を図り、児童・生徒の内面に根ざした道徳性を育成することができているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | 道徳教育推進教師の育成を図り、各校における道徳教育の推進体制づくりを支援する。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 道徳教育の推進体制の構築 | 道徳教育に係る市主催の研修等を通して、各校の取組みの充実が図られているか。 | |
| | | | | |

めざす姿

様々な人権課題への正しい理解と認識のもと、心身ともに健康な子どもを育てます。

重要
ワード

基盤としての人権教育

考え議論する道徳

豊かな心

運動に親しむ態度

健やかな成長

施策③ 体力向上と運動に親しむ態度の育成

| | | 指標設定の考え方 | | |
|------|---|---|--|--|
| 成果指標 | 児童・生徒の発達段階に応じた運動に親しむ態度の向上を図り、体力向上へとつなげることをめざす。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定量 | 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点T得点 | 現状（令和5年度） | 目標（令和9年度） |
| | | | 小学校：男子47.5 女子47.8 中学校：男子50.1 女子49.2 | 小学校：男子50.0 女子50.0 中学校：男子53.0 女子52.0 |
| | | 指標設定の考え方 | | |
| 活動指標 | <ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒が、達成感や充足感、体を動かす喜びを感じることでできる体育科学習の充実を図る。 ICT活用、外部人材の活用等を進め、体育科学習を一層豊かなものへと改善を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定量 | 児童・生徒アンケート「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか」における肯定的回答の割合 | 現状（令和5年度） | 目標（令和9年度） |
| | | | 小学校：男子91.7% 女子83.8% 中学校：男子82.4% 女子73.6% | 小学校：男子93.0% 女子85.0% 中学校：男子85.0% 女子80.0% |
| 定性 | 体育科学習の発展的充実 | ICTを活用した新しい学習方法、企業や外部人材の活用等が、各校の体育科学習において適切に取り入れられているか。 | | |
| | | | | |

施策④ 健康教育の充実

| | | 指標設定の考え方 | | |
|------|--|---|--|------------------------|
| 成果指標 | 生涯を通じて健康な生活を送る基礎を培うことをめざし、家庭・地域・関係機関と連携しながら健康教育に取り組むとともに、発達段階を踏まえた保健分野の指導の充実を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 健康教育の充実 | 健康な生活を送るために、学校で学んだことを普段の生活に役立てようとする意欲が育まれているか。 | |
| | | 指標設定の考え方 | | |
| 活動指標 | <ul style="list-style-type: none"> 健康な生活のために、学習したことを普段の生活に役立てようとする意欲を育む。 歯磨き指導や薬物防止教室、小学生向け「命をまもる授業(救命入門コース)」、中学生向け「がん教育授業」等、関係機関と連携しながら、健康教育に取り組む。 幼・小・中の連携を強化し、養護教諭及び栄養教諭による発達段階を踏まえた保健分野の指導の充実を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定量 | 児童・生徒アンケート「朝食を毎日食べていますか」における強い肯定意識の割合 | 現状（令和5年度） | 目標（令和9年度） |
| | | | 小学校 84.4% 中学校 79.7% | 小学校 88.7% 中学校 83.6% |
| 定性 | 関係機関との連携 | 関係機関との連携により、各指導内容に応じた外部人材を効果的に活用し、専門的な指導が実施できているか。 | | |
| 定性 | 養護教諭、栄養教諭の連絡会の実施 | 養護教諭、栄養教諭の連絡会を定期的に関催し、情報共有に努めるとともに、専門性を生かした指導が各校園で実施されているか。 | | |



未来を切り拓く力の育成

施策① 教育DXの推進

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|--|---|--|--|
| | 国の「GIGAスクール構想」のもと、ICT環境の整備と学びの変革を一体的に進め、一人一台タブレット端末を最大限効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | ICT環境整備と学びの充実 | 市立学校におけるICT環境が効果的に活用されることで、子どもたちの学びが豊かなものとなっているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・高速無線接続環境を維持し、有益な学習環境を提供することで、最大限効果的なタブレットの活用を図る。 ・授業実践の蓄積から好事例を共有し、端末の利活用を更に進めていく。 ・専門的な外部人材を活用した研修の充実を図り、ICTを活用した授業づくりの先端の研究を推進する。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定量 | 児童・生徒におけるほぼ毎日タブレット端末を活用する割合 | <u>現状（令和5年度）</u> 小学校 61.7% 中学校 44.9% | <u>目標（令和9年度）</u> 小学校 80.0% 中学校 70.0% |
| | 定量 | 授業中にICTを活用して指導できる能力に肯定意識をもつ教員の割合 | <u>現状（令和5年度）</u> 77% | <u>目標（令和9年度）</u> 85% |
| | 定量 | 教育DXを推進するための研修会実施数と参加人数 | <u>現状（令和5年度）</u> 実施回数： 5回 参加人数： 80人 | <u>目標（令和9年度）</u> 実施回数： 7回 参加人数： 110人 |

施策② 情報活用能力の育成

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|--|--|---|---|
| | 高度に情報化された現代社会において、膨大な情報の中から必要な情報を探し出し、活用する力を育成する。また、情報社会の一員としての責任ある行動を身につけるため、情報モラル教育の充実を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 体系的な情報活用能力の育成 | 市立学校において、体系的な情報活用能力（情報モラルを含む）の育成が図れているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で重点的に身につけるべき資質・能力の整理を行い、情報活用能力の系統化、有用なコンテンツの導入を進める。 ・多様な媒体から情報を収集し、それを整理・分析して表現するといった探究的な学び方を重視する。 ・急速に進化する情報技術や複雑化する課題に適応できるよう、情報モラル教育の充実を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 情報活用能力育成計画の作成 | 各校の実態や発達段階に応じ、各教科及び教科横断的な学びの中で情報活用能力が系統的に育成できるよう計画されているか。 | |
| | 定量 | 情報活用能力に関わる研修会実施数と参加人数 | <u>現状（令和5年度）</u> 実施回数： 2回 参加人数： 26人 | <u>目標（令和9年度）</u> 実施回数： 4回 参加人数： 50人 |
| 定性 | 情報モラル教育の充実 | 適切な指導教材や有用なコンテンツ、見識のある外部人材を活用した情報モラル教育が実施できているか。 | | |

めざす姿

教育DXの観点から新しい学びの可能性を拓き、時代の変化に対応した学力を育みます。

重要
ワード

#デジタルトランスフォーメーション

#情報活用能力

#情報モラル

#プログラミング教育

#グローバル化

#異文化理解

施策③ 系統的なプログラミング教育

| | | 指標設定の考え方 | | |
|------|--|-------------------------------------|---|-----------------|
| 成果指標 | 段階的にプログラミングスキルが身につく学習環境を整え、論理的に考える力へとつながるプログラミング的思考を養うとともに、試行錯誤する力、問題解決能力を高めるプログラミング教育をめざす。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 系統的なプログラミング教育の充実 | 市立学校において、発達段階に応じた実践的なプログラミング教育が展開されているか。 | |
| | 指標設定の考え方 | | | |
| 活動指標 | <ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒が楽しみながら創造的にプログラミング学習に取り組めるようなコンテンツの選定を進める。 専門的な指導が可能となるよう、教職員研修による指導者の育成や外部人材の活用を図る。 知識を習得するだけでなく、実践的なプログラミング的思考を養い、問題解決能力を高めていく。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | プログラミング学習環境の構築 | 必要なスペックを満たす使用端末、安定したネットワーク環境、有益な学習コンテンツが整えられているか。 | |
| | 定量 | プログラミング授業の指導者育成を目的とした研修会や担当者会の実施回数 | 現状（令和5年度） 1回 | 目標（令和9年度） 3回 |
| 定性 | 系統的なカリキュラムの計画 | 実効的なプログラミング教育のカリキュラムが、系統的に作成できているか。 | | |

施策④ 実践的な英語教育の推進

| | | 指標設定の考え方 | | |
|------|---|---|---|-----------------------|
| 成果指標 | 子どもたちが今後生きていく時代は、グローバル化が加速的に進み、世界共通の課題も増加していくことが予想される。異なる文化やバックグラウンド、価値観を持つ他者と協働して課題を解決していく場面も増えていく。英語教育を通して、言語の背景にある文化や相手へ配慮しながら、伝え合い、理解し合うコミュニケーション能力の育成を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | コミュニケーション能力の育成 | 相手を意識したり、英語の背景にある文化に配慮したりしながら、お互いに考えや気持ちを伝え合う言語活動が充実し、子どもたちのコミュニケーション能力が育成されているか。 | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 市立学校園に外国人英語指導助手ALTを派遣し、異文化理解力や、コミュニケーション能力の育成を図る。 英語教育に関する教職員研修を充実させ、教職員の授業改善を図る。 連絡会を定期的に開催し、実践の交流、好事例の紹介を通じて、教職員が共に学び合える場を設定する。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定量 | ALTの延べ派遣時間数 | 現状（令和5年度） 9,996時間 | 目標（令和9年度） 11,424時間 |
| | 定量 | 研修の参加者アンケート「研修で得たことを今後活かすことができるか」に対する強い肯定意識の割合 | 現状（令和5年度） 66.7% | 目標（令和9年度） 75.0% |
| 定性 | 連絡会の実施 | 教職員同士による連絡会を定期的に開催することを通して、英語教育の質的向上を図ることができているか。 | | |



社会形成能力の育成

施策① 特別活動を要としたキャリア教育の充実

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|---|-------------------------------------|--|--|
| | 児童・生徒自身が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通し、社会的・職業的自立に向けて必要な能力・態度を身につけていけるよう、学級活動や学校行事等の特別活動を要として、あらゆる教育活動の中で系統的かつ体系的に進めるキャリア教育を推進する。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定量 | 児童・生徒アンケート「将来の夢や目標を持っていますか」に対する強い肯定意識の割合 | 現状（令和5年度） 小学校 55.8% 中学校 31.4% | 目標（令和9年度） 小学校 65.8% 中学校 44.4% | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | ・特別活動を要として、教育活動全体を通して系統的・体系的にキャリア教育を進めていく。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 特別活動を要としたキャリア教育 | 各校において、特別活動を要として、教育活動全体を通して系統的体系的にキャリア教育が進められているか。 | |

施策② 実践的な態度を育む学校行事

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|---|---|---|--|
| | 子どもたちが自らの能力や可能性を発揮できる学校行事を通して、主体性と実践的態度の育成を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定量 | 児童・生徒アンケート「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する強い肯定意識の割合 | 現状（令和5年度） 小学校 55.0% 中学校 40.9% | 目標（令和9年度） 小学校 59.8% 中学校 48.3% | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成における学校行事の役割や意義を明確にすることで、魅力ある学校行事の充実を図る。 ・安全に最大限配慮した行事計画の中で、五感を通じて豊かに学ぶことのできる自然体験活動の充実を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 児童・生徒が力を発揮できる学校行事の編成 | 子どもたちの現状や課題を踏まえ、教科学習等で身につけた力を統合的に活用することのできる魅力ある学校行事が編成されているか。 | |
| 定性 | 自然体験学習の充実 | 安全を確保した行事計画のもと、豊かな自然体験が伴う宿泊行事が実施されているか。 | | |

めざす姿

豊かな学習経験を通して、多面的・多角的な広い視野と主体的に社会に参画する態度を育みます。

重要
ワード

#キャリア・パスポート

#コミュニケーション能力

#持続可能な社会

#子ども読書活動推進計画

施策③ SDG s の理念に基づく教育の推進

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | |
|------|---|--|---|
| | 持続可能な社会の担い手として、社会に関心を持ち、関わろうとする意識の向上を図ることができるよう、学校外の人々との関わり・連携を活かした学習の拡充をめざす。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| 定量 | 児童・生徒アンケート「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に対する肯定意識の割合 | <u>現状（令和5年度）</u> 小学校 74.8% 中学校 57.4% | <u>目標（令和9年度）</u> 小学校 77.8% 中学校 63.9% |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | |
| | ・持続可能な社会の担い手として、社会に関心を持ち、社会に関わろうとする意識の向上を図る。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| | 定性 | SDG s の理念に基づく学習活動の実施 | 生活科及び総合的な学習の時間を中心に、SDG s の理念に基づく学習活動が計画・実施されているか。 |
| | | | |
| | | | |

施策④ 子どもの読書活動の推進

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|---|-----------------------------|---|---|
| | 学校図書館と市立図書館が連携を深め、児童・生徒が日常的に本に接するための環境整備及び取組みの充実を図ることで、不読率の改善をめざす。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定量 | 普段、1日を通して本（教科書以外）を全く読まない子どもの割合 | <u>現状（令和5年度）</u> 20.9% | <u>現状（令和9年度）</u> 15.0% | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 蔵書の更新により、学校図書館の環境整備を図る。 子どもたちの豊かな想像力を育むため、地域のボランティアと連携し、乳幼児から中学生までの年齢に応じたおはなし会を開催する。 児童・生徒の読書活動推進を目的とし、学校図書館への団体貸出の充実を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定量 | 市立学校における蔵書の平均冊数 | <u>現状（令和5年度）</u> 9,763冊 | <u>目標（令和9年度）</u> 12,216冊 |
| | 定量 | 市立図書館におけるおはなし会実施回数・参加人数 | <u>現状（令和5年度）</u> 実施回数： 80回 参加人数： 1,310人 | <u>目標（令和9年度）</u> 実施回数： 84回 参加人数： 1,350人 |
| 定量 | 学校図書館への団体貸出冊数 | <u>現状（令和5年度）</u> 29,532冊 | <u>目標（令和9年度）</u> 30,000冊 | |



一人ひとりに寄り添う支援教育

施策① 早期からの相談・支援体制

| | | | | |
|------|--|--|--|------------------|
| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | インクルーシブ教育充実のため、子どもの成長段階に応じたきめ細かな支援、自立と社会参加へ向けた切れ目ない適切な指導や支援が求められる。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 学びの場の選択と継続的支援 | 支援を必要とする子どもが、社会参加と自立を見据え、最適な学びの場を選択し学び続けるための組織的体制が築かれているか。 | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・就園・就学前関係施設との連携強化を図る。 ・将来を見据えた相談に対応できるよう、各校園への専門家派遣の体制を充実する。 ・支援教育のコーディネーターが中心となり、就学前施設を含めた各校園所における情報の共有を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 就園・就学相談の実施体制 | 各園所との連携のもと、保護者のニーズに応じた相談体制が構築できているか。 | |
| | 定量 | 巡回相談の実施回数 | 現状（令和5年度） 79回 | 目標（令和9年度） 92回 |
| 定性 | 学園コーディネーター会議 | 各学園において、支援教育のコーディネーター会議を定期的に開催することで、連続した支援体制の強化を図ることができているか。 | | |

施策② 個々のニーズに応じた支援教育

| | | | | |
|------|---|---|--|---|
| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | 支援を必要とする園児・児童・生徒の教育的ニーズが多様化・複雑化しており、教職員の障がいに対する理解、指導力の向上を図る必要がある。また、医療的ケアの必要な園児・児童・生徒が地域の学校園で安全・安心に教育を受けることができるよう環境整備し、看護師を確保することが求められる。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 支援体制の構築 | 安全に、自分らしく、一人ひとりの教育的ニーズに応じた最適な学び方で学習することができるような支援教育が築かれているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・各機関の引継ぎを充実させ、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を活用した切れ目ない支援を行う。 ・支援教育や子ども理解に関する研修を実施し、教職員の指導力の向上、教育的ニーズに対応できる体制づくりをめざす。 ・個に応じた支援の充実に努める。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定量 | 個別的教育支援計画・個別の指導計画等の引継ぎ率 | 現状（令和5年度） 就学前→小学校：9% 小学校→中学校：81% | 目標（令和9年度） 就学前→小学校：100% 小学校→中学校：100% |
| | 定量 | 研修の実施回数及び参加者数 | 現状（令和5年度） 実施回数：14回 参加者数：548人 | 目標（令和9年度） 実施回数：20回 参加者数：800人 |
| 定量 | 池田市リーディングチーム・リーディングスタッフの活用校園率 | 現状（令和5年度） 未実施 | 目標（令和9年度） 100% | |

めざす姿

支援教育を広義で捉え、多様な支援を必要とする一人ひとりに寄り添う教育を行います。

重要
ワード

#就園・就学相談

#個別の指導計画

#通級指導教室

#医療的ケア

#日本語(母語)指導

施策③ 日本語が困難な児童・生徒への支援

| | | 指標設定の考え方 | |
|------|---|--|--|
| 成果指標 | 市内では日本語が困難な児童・生徒が増加しており、母語や滞在年数等も多様になっている。個々のニーズに合わせた日本語指導や母語による支援を一層推進する。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| | 定性 | 日本語が困難な児童・生徒への支援体制の充実 | 日本語が困難な児童・生徒やその保護者等が、ニーズや必要性に応じて効果的な支援を受けることができているか。 |
| | | 指標設定の考え方 | |
| 活動指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者による日本語指導や母語支援の充実を図る。 ・在日外国人日本語指導支援事業により、各校園における外部人材を活用した日本語指導の充実を図る。 ・日本語指導や在日外国人教育に関する知識を深める場として教職員研修の充実を図る。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| | 定量 | 委託事業者による日本語指導（母語支援を含む） | <u>現状（令和5年度）</u> 355回 <u>目標（令和9年度）</u> 360回 |
| | 定量 | 各校園における外部人材を活用した日本語指導の総時数 | <u>現状（令和5年度）</u> 476時間 <u>目標（令和9年度）</u> 535時間 |
| 定量 | 日本語指導や在日外国人教育に関する研修回数 | <u>現状（令和5年度）</u> 1回 <u>目標（令和9年度）</u> 3回 | |

施策④ 他機関との連携による専門性の向上

| | | 指標設定の考え方 | |
|------|---|---|--|
| 成果指標 | 医療的ケア児も含めた障がいの重度・重複化・多様化に応じた支援体制を構築するため、関係機関の連携が求められる。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| | 定性 | 関係機関との連携強化 | 関係機関との密な連携により、一人ひとりのニーズに応じた支援体制を一層質の高いものへと強化できているか。 |
| | | 指標設定の考え方 | |
| 活動指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアが実施できるよう看護師を配置するとともに、医療的ケア児等及びその保護者の生活をサポートするために関係機関（医療・福祉・教育など）をつなぐ医療的ケア児等コーディネーターの選出が求められます。 ・医療機関等と連携し、一人ひとりに応じた支援・指導ができるよう努める。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| | 定性 | 医療的ケア児・者支援部会（池田市地域自立支援協議会の組織）等を活用した各機関との連携 | 医療的ケア児等コーディネーターを <u>継続的</u> に選出し、縦のつながりを大切にした医療的ケアの体制づくりができているか。 |
| | 定量 | 専門家派遣の回数（医師等） | <u>現状（令和5年度）</u> 1回 <u>目標（令和9年度）</u> 3回 |
| 定量 | リーディングスタッフ（府立支援学校）の活用校園数 | <u>現状（令和5年度）</u> 6校園 <u>目標（令和9年度）</u> 16校園 | |



学びの場の保障と充実

施策① いじめを見逃さない学校環境の構築

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|--|-------------------------------------|---|--|
| | どんな小さいいじめも見逃さない姿勢のもと、子どもたちのいじめを許さない態度・能力を育成し、安心して学び合える学校づくりをめざす。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定量 | 児童・生徒アンケート「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する強い肯定意識の割合 | 現状（令和5年度） 小学校 80.1% 中学校 69.0% | 目標（令和9年度） 小学校 87.6% 中学校 85.3% | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 積極的に認知したいじめについて、その解消を図るために学校の組織的指導体制を強化する。 いじめの未然防止教育を通して、いじめを許さない態度・能力を育成する。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 認知したいじめの解消 | 認知したいじめについて、組織的かつ継続的な対応により、解消を図ることができているか。 | |
| | 定性 | いじめの未然防止教育の充実 | 道徳教育や人権教育だけでなく、日常のすべての教育活動においていじめの未然防止教育を推進しているか。 | |

施策② 個々の状況に応じた学びの場の保障

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|--|---|-------------------------------------|-------------------------------------|
| | 不登校児童・生徒のニーズを踏まえ、個々の学びと進路が保障される体制をすべての市立学校で構築する。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 一人ひとりのニーズを満たす不登校支援体制構築 | 不登校の未然防止に向けて、すべての教職員が専門家と連携し、子ども一人ひとりをアセスメントし、校内教育支援センターをはじめ、適切な支援につなげる組織体制を作り上げているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 新規不登校者数を増加させないよう学校における学びの場を保障する。 保護者の理解をもとに、不登校傾向の児童・生徒が孤立しないような環境整備が求められる。 所属学級に入ることができない児童・生徒のために、多様な学びの場を位置付けることが求められる。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定量 | 新規不登校者数 | 現状（令和5年度） 小学校 59人 中学校 67人 | 目標（令和9年度） 小学校 35人 中学校 45人 |
| | 定量 | 専門機関や専門職から直接支援を受けていない不登校児童・生徒数の割合 | 現状（令和5年度） 小学校 31.0% 中学校 72.8% | 現状（令和9年度） 小学校 10.0% 中学校 25.0% |
| 定性 | 不登校児童・生徒の学びの場の確保 | 不登校児童・生徒のニーズに応じ、校内教育支援センター、教育支援センター、NPO等の学びの場に適切につながられているか。 | | |

めざす姿

安心して学び合える集団づくりと学びの選択肢により、すべての子どもの学びを保障します。

重要
ワード

#不登校

#いじめ

#教育相談

#校内教育支援センター

#スクールカウンセラー

#スクールソーシャルワーカー

施策③ SC・SSW等の支援体制の充実

| 成果指標 | | 指標設定の考え方 | | |
|------|-----------------------------|---|---|--|
| | | SC・SSW等の専門家による支援体制の充実を図ることで、子どもや保護者、教職員の相談希望の増加に対応する。 | | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | |
| 定性 | 市立学校におけるSC・SSW等の専門家による適切な支援 | 子ども、保護者、教職員が求める相談に対し、必要な体制が確保できているか。 | | |
| 活動指標 | | 指標設定の考え方 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> SCによる子どもや保護者、教職員からの相談体制の充実を図る。 SSWによる子どもや保護者、教職員からの相談体制の充実を図る。 会議等にSCやSSW等の専門家を位置づけ、専門家の助言も踏まえながら、子どもの支援へとつなげる。 | | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | |
| 定量 | SCによる児童生徒・保護者・教職員への延べ相談回数 | 現状（令和5年度） 7,793回 | 目標（令和9年度） 8,000回 | |
| 定量 | SSWによる児童生徒・保護者・教職員への延べ相談回数 | 現状（令和5年度） 1,441回 | 目標（令和9年度） 1,500回 | |
| 定量 | SC・SSWの会議等への参加回数 | 現状（令和5年度） S C : 1,608回 S S W : 202回 | 目標（令和9年度） S C : 1,700回 S S W : 240回 | |

施策④ 学校園と他機関との連携

| 成果指標 | | 指標設定の考え方 | | |
|------|-------------------------|--|---------------------|--|
| | | 子どもの発達に関わることなど、学校教職員だけでは解決できない諸問題に対し、専門的な見識と知識をもった相談員による支援を活用し、解決にあたる。 | | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | |
| 定性 | 学校と機関が連携して児童・生徒の支援を行う体制 | 複雑化、多様化する課題に対して、機関が連携することで、効果的な解決へとつながっているか。 | | |
| 活動指標 | | 指標設定の考え方 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 学校と教育センターが連携し、子どもや保護者への継続的な支援にあたる。 学校とNPOが連携し、子どもや保護者の多様化するニーズに柔軟に対応した教育相談を実施する。 学校教員だけでは解決できない場合に、スクールロイヤー等を活用し法的な観点から適切な助言をする。 | | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | |
| 定量 | 教育センターにおける教育相談件数 | 現状（令和5年度） 3,644件 | 目標（令和9年度） 3,700件 | |
| 定量 | NPO相談件数 | 現状（令和5年度） 3,717件 | 目標（令和9年度） 4,000件 | |
| 定性 | 法的な専門家による支援体制の構築 | 学校からの相談をもとにスクールロイヤーによる支援へとつなげることができているか。 | | |



幼児教育の発展的充実

施策① 豊かな体験で育む保育内容の充実

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|--|--|---------------------------------------|----------------------|
| | 「幼児期の終わりまでに育ってほしい『10の姿』」を基に、幼児教育の修了時までに育ってほしい資質・能力の育ちを具現化する保育を進めるとともに、公立幼稚園の責務として、取組みの成果や課題を市内に発信することが求められる。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 市立認定こども園幼稚園における保育内容の充実 | 市立認定こども園幼稚園における保育内容が充実するとともに、その研究成果を市内へ発信する役割を果たすことで、幼児教育の発展に寄与できているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿に学ぶ研究活動の推進・発信を目的とし、市立認定こども園幼稚園において、公開保育の回数を確保する。 外部の専門保育講師の派遣を継続的に行い、子どもたちが楽しみながら学ぶことができる場をつくる。 遊びを中心に体験的な活動を重視する幼児教育の理念のもと、一人ひとりの感性を大切に保育・教育を実施する。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 市立認定こども園幼稚園における公開保育の実施 | 公開保育の定期的な実施により、市内の幼児教育の質的向上に寄与できているか。 | |
| | 定量 | 市立認定こども園幼稚園における専門保育講師の派遣時間 | 現状（令和5年度） 各園 75時間 | 目標（令和9年度） 各園 95時間 |
| 定性 | 市立認定こども園幼稚園における保育の環境構成 | 幼児の自発的な遊びを引き出すために、子どもが自由に選び、決め、工夫できるような柔軟性のある保育環境を構成できているか。 | | |

施策② 多様な課題に対応する体制づくり

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|---|---|--|--|
| | 幼児教育を取り巻く課題やニーズが多様化する中、高度な専門性を有した教職員を中心とした組織的な体制づくりが強く求められる。また、幼稚園協議会等を中心として、地域・社会との協働的な体制づくりを進めることで、一層魅力ある園づくりをめざす。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 市立認定こども園幼稚園における組織的体制 | 幼児教育アドバイザー等が中心となりながら、教職員がゆとりをもって働けるよう組織的な体制が築かれるとともに、地域とのつながりの中で、特色ある園づくりが進められているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 保育業界の人材不足が大きな課題となる中、組織的な保育体制を維持する。 子どもを真ん中に据えた地域の発展を目的に、地域とともにある幼稚園づくりをめざす。 就学前施設現場を取り巻く多様な課題へ対応できる専門性の高い人材を育成する。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 市立認定こども園幼稚園における人材配置 | 子どもや保護者の多様な教育的ニーズに応えるため、多様な勤務形態で働ける人材が適切に配置できているか。 | |
| | 定性 | 市立認定こども園幼稚園における幼稚園協議会の実施 | 幼稚園協議会を定期開催し、幼稚園の教育目標や取組み等について協議し、地域とともにある幼稚園づくりが進められているか。 | |
| 定量 | 市立認定こども園幼稚園における大阪府幼児教育アドバイザーの認定者数 | 現状（令和5年度） 5名 | 目標（令和9年度） 8名 | |

めざす姿

幼児期に育ってほしい「10の姿」を柱に、幼児教育の充実と小学校との円滑な接続を図ります。

重要
ワード

#幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」

#幼小接続

#スタートカリキュラム

#幼児教育サポートチーム

施策③ 義務教育との円滑な接続

| | | 指標設定の考え方 | | | | |
|-----------|---|---|---|-----------|-----------|----|
| 成果指標 | 乳幼児期の「遊びを通した学び」を、生涯にわたる「学びに向かう力」の根幹として明確に位置づけることで、幼児教育と義務教育における学びの連続性を一層重視し、子ども理解を中核に据えた一人ひとりに最適な学びの創造をめざす。 | | | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | | |
| | 定性 | 小学校・義務教育学校1年生における学びの発展的充実 | 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を共通の視点とすることで、幼小双方の理解が進み、小・義務教育学校1年生の学びの姿が、一層能動的な姿になっているか。 | | | |
| | 指標設定の考え方 | | | | | |
| 活動指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・公私立を問わず市内就学前施設と小学校との連携の充実を図り、連続性・一貫性のある教育をめざす。 ・幼児期から児童期にかけて、互いの教育を理解するための機会を充実する。 ・子どもの望ましい発達や学びの連続性を踏まえた実践的なカリキュラム作成により、幼小接続を一層促進する。 | | | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | | |
| | 定性 | 市内就学前施設と小学校との連携 | 各就学前施設及び小・義務教育学校の実態に応じ、子ども同士や教職員同士がつながり合う取組みが実施できているか。 | | | |
| | 定量 | 幼小接続をテーマにした研修機会の設定 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状（令和5年度）</th> <th>目標（令和9年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2回</td> <td>5回</td> </tr> </tbody> </table> | 現状（令和5年度） | 目標（令和9年度） | 2回 |
| 現状（令和5年度） | 目標（令和9年度） | | | | | |
| 2回 | 5回 | | | | | |
| 定性 | 幼児期、児童期の発達の特性を踏まえたカリキュラムの作成 | 幼児期と児童期を円滑につなぐための実践的なカリキュラムが作成、共有、展開されているか。 | | | | |

施策④ 幼児教育サポートチームによる支援

| | | 指標設定の考え方 | | | | |
|-----------|--|---|---|-----------|-----------|------|
| 成果指標 | 幼児教育サポートチームの責務は、市内各就学前施設の教職員が共に学び合える研修機会を創出することにある。各園所の特徴ある取組みに学びつつ、池田の教育において大切にすべき理念を共有する場を大切にすることで、幼児教育の質的向上に寄与する。 | | | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | | |
| | 定量 | 幼児教育サポートチームが企画する研修への延べ参加人数 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状（令和5年度）</th> <th>現状（令和9年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>476名</td> <td>550名</td> </tr> </tbody> </table> | 現状（令和5年度） | 現状（令和9年度） | 476名 |
| 現状（令和5年度） | 現状（令和9年度） | | | | | |
| 476名 | 550名 | | | | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・市長部局との連携の中、公私立を問わずすべての就学前施設と共に学ぶことができる体制づくりを進める。 ・各園所の実態に応じた園内研究・研修会を支援するため、専門的な知見をもった大学教員による研修機会の充実を図る。 ・市内各就学前施設において、義務教育につながる一体的な幼児教育を推進していくため情報の発信・共有を図る。 | | | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | | |
| | 定量 | 乳幼児教育・保育研修の実施回数 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状（令和5年度）</th> <th>目標（令和9年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7回</td> <td>8回</td> </tr> </tbody> </table> | 現状（令和5年度） | 目標（令和9年度） | 7回 |
| 現状（令和5年度） | 目標（令和9年度） | | | | | |
| 7回 | 8回 | | | | | |
| 定量 | 園所内巡回研修の訪問園所数 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状（令和5年度）</th> <th>目標（令和9年度）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12園所</td> <td>20園所</td> </tr> </tbody> </table> | 現状（令和5年度） | 目標（令和9年度） | 12園所 | 20園所 |
| 現状（令和5年度） | 目標（令和9年度） | | | | | |
| 12園所 | 20園所 | | | | | |
| 定性 | 幼児教育サポートチームだより発行 | 幼児教育サポートチームだよりを月1回発行することで、市内就学前施設に対し、有意義な情報を発信・共有することができているか。 | | | | |



一貫教育による学びの連続性

施策① 学びの連続性を大切にする体制づくり

| 成果指標 | | 指標設定の考え方 | | |
|------|--------------------|--|----------------------|--|
| | | 子どもの学びにおける学園内の課題を共有し、その課題解決に向けた取組みを充実させていくために、各校で実施される校内研究授業参観や学園合同研究授業の実施を図ることで、各学園のニーズに応じた体制の構築をめざす。 | | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | |
| 定性 | 各学園における組織的体制 | 小中一貫コーディネーターを中心に、各学園の理念が全職員で共有され、特色ある学園づくりが一体的に進められているか。 | | |
| 活動指標 | | 指標設定の考え方 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の情報交換、教科の系統性、生徒指導上の連携等、教職員間で協議する場を継続的に設定する。 ・各学園の特色ある実践を共有する場を通して、小中一貫教育を発展的充実を図る。 ・学園内における児童・生徒の課題を把握し、子どもの姿を理解・共有するための合同研究授業の実施を進める。 | | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | |
| 定量 | 各学園におけるWithの日の実施回数 | 現状（令和5年度） 各学園5回 | 目標（令和9年度） 各学園6回以上 | |
| 定性 | 池田市小中一貫教育推進委員会の充実 | 子どもの多様な資質や能力を伸ばす系統的・継続的な学習、心の教育、生活指導のあり方、教員の協働等、各学園の豊かな教育実践を交流する場が組織できているか。 | | |
| 定量 | 合同研究授業の実施 | 現状（令和5年度） 2学園 | 目標（令和9年度） 全5学園 | |

施策② 児童・生徒の交流と学びのつながり

| 成果指標 | | 指標設定の考え方 | | |
|------|-----------------------|---|--|--|
| | | 児童間交流や児童・生徒間交流の取組みを進めることで、学校間を超えた学びのつながりや深まりが生まれるような活動をめざす。 | | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | |
| 定性 | 各学園における小中一貫教育の活動内容の充実 | 学園内における児童・生徒の関係性が豊かになるとともに、児童の進学に関する不安感を軽減できているか。 | | |
| 活動指標 | | 指標設定の考え方 | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・小小交流や小中交流を実施し、児童間、児童・生徒間同士のつながりを図る。 ・新しい学校への期待感向上や中学校への理解を深め、小中接続を円滑に進めることができるように体制を整備していく。 | | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | |
| 定性 | 小小交流・小中交流の充実 | 合同授業や合同校外学習等、児童・生徒が学びでつながり合う取組みを継続的に行えているか。 | | |
| 定性 | 体験入学の実施 | 各学園において魅力的な体験入学が実施され、新しい学校に向けた児童の期待感向上につながっているか。 | | |
| | | | | |

めざす姿

各発達段階での学びが途切れることがないように、学びの連続性を大切にした教育を推進します。

重要
ワード

#学びの連続性

#小中一貫教育

#Withの日

#教育コミュニティづくり

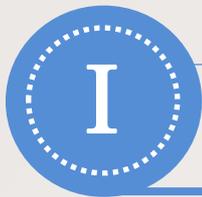
#義務教育学校

施策③ 地域の教育コミュニティとの連携

| 成果指標 | | 指標設定の考え方 | |
|------|---------------------|--|--|
| | | 地域における学びの機会の減少、学校を取り巻く問題の多様化に対して、同じ学園内の各校が地域と連携・協働することで、学校・家庭・地域が一体となった体制づくりをめざす。 | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 学校・家庭・地域における組織体制の充実 | 義務教育9年間を連続した学びの期間として捉え、家庭や地域とのつながりの中で、特色ある学校園づくりが進められているか。 | |
| 活動指標 | | 指標設定の考え方 | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 各校の学校運営協議会との連携を図り、学校・家庭・地域との協働を一層実効的なものとする事で、地域とともにつくる特色のある学校園づくり推進する。 各学園の課題や願いを家庭や地域で共有することを通して、「社会に開かれた教育課程」の実現に努める。 | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 学校・家庭・地域の協働体制 | 各校に設置拡充を進めるコミュニティ・スクールの取組みを生かした組織体制により、実効的な協議の場が組織できているか。 | |
| 定性 | 家庭や地域への発信 | 各学園の教育理念や特色ある実践を、小中一貫教育学園リーフレット等を用い、家庭や地域へ発信できているか。 | |

施策④ 義務教育学校の特色ある教育

| 成果指標 | | 指標設定の考え方 | |
|------|--|--|---------------------------------------|
| | | 子どもたちの学びの姿や意識調査による実態把握をもとに、9年間の系統的な教育活動を展開することで、キャリア教育が目的とする「自己の生き方について主体的に考え、適切な意思決定を行い、社会の一員として自立して生きていく力の育成」をめざす。 | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定量 | 児童・生徒アンケート「将来の夢や目標を持っていますか」に対する肯定意識の割合 | 現状（令和5年度） 前期課程 58.3% 後期課程 73.6% | 目標（令和9年度） 前期課程 86.5% 後期課程 75.0% |
| 活動指標 | | 指標設定の考え方 | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 「4・3・2」の3ステージ制の教育区分を土台にし、各ステージにおける子どもたちの資質向上を図る。 前期課程と後期課程教員の一体的・継続的な教育の中で、前期課程と後期課程の円滑な接続を図る。 地域全域を学びの舞台とした教科横断的な教育課程を編成することで、探究的な学習の充実を図る。 | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 3ステージ制における指導体制 | 3ステージ制を生かした組織体制のもと、子どもが各ステージで活躍できる教育活動が展開されているか。 | |
| 定性 | 継続的な教職員の関わり | 多くの教職員が継続して児童・生徒に関わることができる環境を生かし、学力向上に資する取組みが実施されているか。 | |
| 定性 | コミュニティ・スクールの特性を生かしたカリキュラム編成 | 社会に開かれた教育課程の中で、教科横断的かつ探究的な視点をもって、9年間の系統的なカリキュラムが実施されているか。 | |



教職員の資質・能力の向上

施策① 次代を担う人材の育成と確保

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|---|--|-----------------------------------|-----------------------------------|
| | 教員不足が全国的に大きな課題となる中、大阪府豊能地区教職員人事協議会と連携し、池田市の教育力を支える高い資質をもった人材の確保に努める。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 高い資質をもった人材の確保 | 豊能地区が求める人物像にあてはまる高い資質をもった教職員を、計画的かつ安定的に確保できているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 高い資質をもった人材を確保するため、豊能地区公立学校教員採用選考テスト受験者数の増加をめざす。 基礎定数内教員の講師率を引き下げ、長期的に安定した人材を確保する。 大学時代から実践的な学びの場を提供することで、池田市で教員を志す人材の意欲、指導力を早期から養成する。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定量 | 豊能地区教員採用試験受験者数 | 現状（令和5年度） 676人 | 目標（令和9年度） 700人 |
| | 定量 | 基準定数内教員の講師率引き下げ | 現状（令和5年度） 小学校 6.8% 中学校 7.1% | 目標（令和9年度） 小学校 5.0% 中学校 5.0% |
| 定量 | 教員養成「ふくまる教志塾」出身の池田市正規採用教員累計数 | 現状（令和5年度） 累計79人 | 目標（令和9年度） 累計100人 | |

施策② 教職員の育成

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|---|---|---------------------|---------------------|
| | 教職員が主体的に学び続けることができるよう、教育を取り巻く各分野の専門的な知見を有した外部人材の積極的な活用を行い、教職員の指導力向上をめざす。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 多様な研修機会の設定 | 第2次池田市教育振興基本計画の4つの基本方針と16の政策目標に準拠した研修内容を設定することで、本市の教育施策の具現化と教育課題の解決に資することができているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 教育動向や技術の最新を学び、効果的な指導方法が習得できる研修機会の保障をめざす。 教職員が主体的に学びたいと思える研修の設定をめざし、研修内容の充実を図る。 可視化された研修履歴をもとに、自らの強みや弱み、今後伸ばすべき能力などを把握し、教職員自身のキャリア形成の充実をめざす。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定量 | 池田市教職員研修の実施回数 | 現状（令和5年度） 81回 | 目標（令和9年度） 85回 |
| | 定量 | 池田市教職員研修の延べ受講者数 | 現状（令和5年度） 1,570人 | 目標（令和9年度） 1,800人 |
| 定量 | 研修受講履歴記録システム及び全国教員研修プラットフォーム（Plant）を活用した研修受講者数 | 現状（令和5年度） 未実施 | 目標（令和9年度） 2,000人 | |

めざす姿

教職員の採用と育成の一体的な充実と業務改善の推進により、教育の質の向上を図ります。

重要
ワード

#採用と育成の一体的充実

#大阪府豊能地区教職員人事協議会

#教職員研修

#ふくまる教志塾

#業務改善

施策③ 管理職の資質向上と次世代管理職の育成

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|--|--|---------------------------|-----------------|
| | 教員組織の若返りが進む中、組織的な学びの場を効果的に機能させていくことが重要であり、その推進役となる学校管理職、またはミドルリーダーである中堅教諭の育成を推進し、子どもたちがいきいきと成長できる学校をめざす。 | | | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | |
| 定性 | 市立学校園における管理職の適切なマネジメント体制の確立 | 管理職が中心となり、学校自体を教師の学びのコミュニティと捉えて、自律的な研修組織として機能させることができているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 学校管理・運営に関する研修を実施し、管理職の資質向上を図る。 大阪府豊能地区教職員人事協議会及び豊能地区各教育委員会と連携し、管理職の人事交流を積極的に進める。 キャリア形成や能力向上が計画的に行われるよう、首席や指導教諭への若手教員からの積極的な登用を図り、各校において適切な配置を進める。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定量 | 管理職研修の実施回数 | 現状（令和5年度） 1回 | 現状（令和9年度） 3回 |
| | 定性 | 管理職の人事交流 | 豊能地区内の管理職人事交流が積極的に行えているか。 | |
| 定量 | 各校における首席・指導教諭の配置率 | 現状（令和5年度） 75% | 現状（令和9年度） 90% | |

施策④ 学校の業務改善

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|---|---|---|--|
| | 学校が抱える課題が複雑化・困難化する中で、教職員の長時間勤務の実態が問題となっている。この状況を改善し、教職員がゆとりと一人ひとりの子どもと向き合う時間を確保する。 | | | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | |
| 定量 | 月45時間以上の時間外勤務割合 | 現状（令和5年度） 小学校 23.1% 中学校 44.5% | 目標（令和9年度） 小学校 15.0% 中学校 30.0% | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 教職員の勤務の現状を把握したうえで、各校の管理職と連携し、長時間勤務を縮減する。 スクールサポートスタッフ等の業務改善に関わる人材を確保し、教員が担うべき業務に専念できる環境整備を推進する。 学校事務職員間の連携を強化し、諸業務を共同実施できるように体制を整備していく。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 職員の勤務状況の把握 | 勤務時間管理システムを活用し職員の勤務状況を適切に把握することができているか。 | |
| 定性 | 業務改善に関わる人材の確保 | 業務改善に関わる人材を適切に各校園に配置できているか。 | | |
| 定性 | 学校事務職員連携会の開催 | 池田市内の学校で効率的な共同実施ができるように、適切な時期に連携会が実施できているか。 | | |



子どもの安全を守る体制づくり

施策① 家庭・地域の連携による見守り強化

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|--|---|---------------------------------------|---------------------------|
| | 学校、家庭、地域との連携を強化することで、園児・児童・生徒の登校時における安全を保持し、安心して学ぶことができる学校園づくりに努める。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 安全意識の醸成と園児・児童・生徒の安心 | 学校、家庭、地域において、安全に関する高い意識が醸成され、子どもたちの安全・安心が保たれているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区に生活指導協力委員会を組織し、地域、保護者、学校、行政で連携し、学校外での見守りの充実を図る。 ・園児・児童・生徒の登校時の安全を保持する観点から、見守り活動が引き続き実施できるよう、学校と地域、保護者の連携を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 生活指導協力委員会との連携 | 家庭・地域・学校・行政と情報共有を行い、見守り活動の強化が図られているか。 | |
| | 定量 | 通学路安全見守りシステムの協力アプリダウンロード数 | 現状（令和5年度） 未実施 | 目標（令和9年度） 小学校在籍世帯数 60% |

施策② 子どもの安全対策の強化

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|--|---|-----------------------------------|------------------|
| | 子どもたちが安全かつ安心して通えるように、防犯システムの効果的な活用や人的配置など、安全対策の強化を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 子どもが安全かつ安心して通える体制の構築 | 子どもたちが安全かつ安心して通えるように、防犯システムの効果的な活用や人的配置など、安全対策がなされているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが安全かつ安心して学校に通えるよう市立学校の校門に防犯カメラを設置するとともに、小学校通学路においても登下校見守りシステムを広げ、位置情報や行動履歴を記録し安全対策の強化を図る。 ・安全対策の強化によって子どもたちが安全かつ安心して通うことで保護者の安心感を高める。 ・市立小・義務教育学校にスクールガードリーダーを配置し、子どもの安全確保を行う。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 防犯システムの充実 | 安心かつ安全に学校に通うために子どもの安全対策が強化されているか。 | |
| | 定量 | 子どもの登下校における安心感を測る5段階の保護者アンケート満足度 | 現状（令和5年度） 未実施 | 目標（令和9年度） 4.2 |
| 定性 | スクールガードリーダーの配置 | 小学校及び義務教育学校の稼業日において、スクールガードリーダーを適切に配置できているか。 | | |

めざす姿

家庭・地域・学校・行政が連携を図ることで、子どもが安心して学べる学校園づくりを進めます。

重要
ワード

#生活指導協力委員会

#防犯システム

#スクールガードリーダー

#危機管理マニュアル

#安全・防犯・防災教育

施策③ 安全・防災教育の充実

指標設定の考え方

学校の安全教育においては、子どもたちが自ら危険を察知し、回避する力を身に付けさせることが必要であり、保護者や地域、関係機関と連携した防災・防犯・交通安全教育の推進を図る。

種類

指標の名称

評価の基準

定性

安全・防災教育の充実

子どもの発達段階に応じた防犯・防災・交通安全教育の計画的な実施とともに、各校園において家庭・地域と連携した学校安全体制が整備されているか。

指標設定の考え方

- ・安全に行動できるための危機予測・回避能力を育むため、防犯・防災教育を推進する。
- ・予期せぬ災害や犯罪等から子どもの安全を守るため、緊急時に機能する危機管理体制を構築する。

種類

指標の名称

評価の基準

定性

防犯・防災教育の推進

様々な状況に対応した避難訓練・不審者対応訓練等を、計画的に実施できているか。

定性

危機管理マニュアルの見直し

機能する危機管理体制を構築するとともに、危機管理マニュアルについて毎年見直し・改善を行っているか。

成果指標

活動指標

施策④ 安全・防災における他機関との連携

指標設定の考え方

子どもたちが安心して学べる学校園づくりに向けて、他機関との連携による安全・防災教育の実施や、通学路の整備など安全な環境づくりを進める。

種類

指標の名称

評価の基準

定性

安全・防災における他機関との連携

交通安全協会・交通道路課・池田警察・消防署等、他機関と連携した安全教育を実施し、子どもの安全を守る環境づくりを進めているか。

指標設定の考え方

- ・交通安全に対する子どもたちの意識向上をめざし、関係機関と連携した交通安全教室を実施する。
- ・「子供の移動経路交通安全プログラム」に沿って、関係機関と連携し、中学校区ごとに安全点検を行う。

種類

指標の名称

評価の基準

定性

交通安全教室の実施

園児・児童・生徒の発達段階に応じた交通安全教室を計画・実施できているか。

定性

「子供の移動経路交通安全プログラム」の合同点検の実施

中学校区ごとに計画的に合同点検を行い、通学路の再確認と危険箇所等の安全対策を実施しているか。

成果指標

活動指標



教育の質を高める教育環境の整備

施策① 就学支援の充実

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|--|---------|-------------------------------------|---|
| | 就学援助及び特別支援教育就学奨励費について、保護者が申請しやすい環境を整え、制度を円滑に利用できるよう取り組む。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 就学支援の充実 | 制度の周知を図り、保護者が申請しやすい環境の充実を図ることができるか。 | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | ・就学援助及び特別支援教育就学奨励費について周知し、申請しやすい環境を整える。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | | 定性 | 申請方法 | 電子申請の導入や認定基準の見直し等により、保護者が申請しやすい状況になっているか。 |
| | | | | |

施策② 学校施設環境の課題改善

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|---|--------------------------------------|---|---|
| | 限られた財政状況の中、老朽化が進む学校園施設を効果的に更新していくため、財源の確保に最大限努めるとともに、中長期的な維持管理・更新にかかるトータルコストの削減を図る。また、児童数の減少が深刻化している学校施設の現状を分析し、市の実情や社会の変化に対応した学校教育施設のさらなる充実をめざす。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | ①学校園施設の老朽化対策を含めた環境改善 ②市立学校施設環境の充実 | ①「池田市学校施設の長寿命化計画」の方針に基づいた学校施設の環境改善に取り組んでいるか。 ②本市の学校施設の実情を踏まえた整備計画をもとに、部局横断的な庁内体制を構築し、ニーズに対応した学校施設の検討が進められているか。 | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の老朽化状況や児童生徒数の将来推計等の情報を整理、分析し、学校施設再編の実現をめざす。 ・学校施設を検討するうえで、庁内で学校施設に係る情報共有の場を構築する。 ・学校、保護者、子ども、地域等との連携を図ることで、学校施設の充実に向けた一体的な準備体制を築く。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | | 定性 | 市内学校施設に係る整備計画の策定 | 市内学校施設の現状及び将来的な問題について、十分に把握、分析し、ニーズに沿った計画を策定できているか。 |
| | | 定性 | 部局横断的体制の構築 | 教育委員会・市長部局それぞれの関係各所が連携を図り、よりよい実現のための体制を構築できているか。 |
| | 定性 | 学校、保護者、子ども、地域等と連携体制の構築 | 学校施設を検討するうえで、市民の理解を深めるとともに、ニーズを聴取するための体制（ワークショップ・住民説明会等）を構築できているか。 | |

めざす姿

時代のニーズに対応した学校施設・教材・就学支援の充実を図り、教育環境の質的向上に努めます。

重要
ワード

#就学援助

#特別支援教育就学奨励費

#GIGAスクール構想

#池田市学校施設の長寿命化計画

#コミュニティ・スクール

施策③ 多様な学習形態への対応

| | | 指標設定の考え方 | | | | | |
|------|---|--|---|------------|------------|-----|-----|
| 成果指標 | <p>学校園においては、GIGAスクール構想の発展的充実をはじめ、今後、一層多様な学習形態が展開されていくことが予想される中、豊かな学校園づくりを支えるため、各校園のニーズに応じた環境整備が求められる。</p> | | | | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | | | |
| | 定性 | 学校園のニーズに応じた環境整備 | 園児・児童・生徒及び教職員にとって、より豊かな学び方を支える環境整備が進められているか。 | | | | |
| | | | 指標設定の考え方 | | | | |
| 活動指標 | <ul style="list-style-type: none"> 各校園のニーズに応じた学校備品の導入を実施する。 各校園のニーズを的確に把握し、個の学びと協働の学びがさらに結びつくような学習形態が実現できるよう、ICTに係る学習環境が整備できているか。 一人一台タブレット端末において、費用対効果、学習効果の観点も踏まえた最適な更新が図られているか。 | | | | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | | | |
| | 定性 | 各校園の実態に応じた備品整備 | 各校園の実情に応じ、最適な学校備品整備が実施できているか。 | | | | |
| | 定量 | 校務にパソコンやタブレットを活用できる能力に肯定意識をもつ教員の割合 | <table border="1"> <tr> <th>現状 (令和5年度)</th> <th>目標 (令和9年度)</th> </tr> <tr> <td>86%</td> <td>95%</td> </tr> </table> | 現状 (令和5年度) | 目標 (令和9年度) | 86% | 95% |
| | 現状 (令和5年度) | 目標 (令和9年度) | | | | | |
| 86% | 95% | | | | | | |
| 定性 | 一人一台タブレットの最適な整備環境 | 学習効果が高いハードウェア、学習ソフトウェアが選定され、充実した保守サービスと運用サポートが行われているか。 | | | | | |

施策④ 社会に開かれた学校園づくり

| | | 指標設定の考え方 | | | | |
|------------|---|--|--|------------|------------|-----|
| 成果指標 | <p>コミュニティ・スクールの拡充と充実を図り、社会に開かれた学校園づくりを一層促進することで、複雑化・多様化する教育諸課題に対し、学校教育と社会教育の協働による課題解決を図る。</p> | | | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | | |
| | 定性 | 学校教育と社会教育の協働 | 学校運営協議会を核に、地域・社会全体で学校や子どもたちを支える体制づくりが進んでいるか。 | | | |
| 活動指標 | | | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 優れた知識や技能を有する地域人材をアドバイザーとして活用することで、学校教育の充実を図る。 市内全校のコミュニティ・スクールを進め、学校教育と社会教育の協働体制強化を図る。 コミュニティ・スクールが実効的な取組みとなるよう、地域学校協働活動との連携を進める。 | | | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | | |
| | 定性 | 地域人材の学校教育への参画 | 優れた知識や技能を有する人材の力を、学校教育の中に効果的に取り入れることができているか。 | | | |
| | 定量 | コミュニティ・スクール設置校数 | <table border="1"> <tr> <th>現状 (令和5年度)</th> <th>目標 (令和9年度)</th> </tr> <tr> <td>1校</td> <td>14校</td> </tr> </table> | 現状 (令和5年度) | 目標 (令和9年度) | 1校 |
| 現状 (令和5年度) | 目標 (令和9年度) | | | | | |
| 1校 | 14校 | | | | | |
| 定量 | 学校運営協議会に属する地域学校協働活動推進員の数 | <table border="1"> <tr> <th>現状 (令和5年度)</th> <th>目標 (令和9年度)</th> </tr> <tr> <td>0人</td> <td>14人</td> </tr> </table> | 現状 (令和5年度) | 目標 (令和9年度) | 0人 | 14人 |
| 現状 (令和5年度) | 目標 (令和9年度) | | | | | |
| 0人 | 14人 | | | | | |



子どもの健康保持増進

施策① 栄養豊かな学校園給食

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|---|---|--|--|
| | 子どもたちの健康促進につながる給食を、責任をもって提供する。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 学校給食の内容の充実 | 学校給食における成長に必要な栄養の確保と質の向上を図ることができているか。また、集団で食べる給食が、子どもたちにとって楽しみの一つとなっているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校給食の実施回数の増加を図る。 ・地元食材を取り入れるなど、魅力的な給食の提供や地域貢献が求められる。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定量 | 中学校給食の実施回数 | <u>現状（令和5年度）</u> 中学1・2年生 150回 中学3年生 130回 | <u>目標（令和9年度）</u> 中学1・2年生 170回 中学3年生 150回 |
| | 定量 | 地元食材の種類の拡充 | <u>現状（令和5年度）</u> 2種類 | <u>目標（令和9年度）</u> 4種類 |
| 定性 | 献立の多様化 | 栄養バランスの取れた献立に加え、行事食やリクエスト献立、地元食材を取り入れた献立など魅力的な給食の提供ができているか。 | | |

施策② 食育の充実

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|--|--|---|-------------------------|
| | 生涯にわたり健康な生活を送れるよう、食生活の基礎知識と望ましい食習慣を身につけることが求められる。栄養教諭を中心とした体系的・継続的な食育を推進する。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 食に関する指導の充実 | 献立作成の工夫や食に関する指導の充実によって、食事の重要性や栄養バランス、食文化への理解が促進されているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理や世界各国の料理を給食で提供することにより、食に関する関心を高める。 ・栄養教諭を中心に食に関する指導の充実を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定量 | 郷土料理・世界の料理の給食提供回数 | <u>現状（令和5年度）</u> 6回 | <u>目標（令和9年度）</u> 10回 |
| | 定性 | 栄養教諭の連絡会の実施 | 栄養教諭の連絡会を定期的開催することで、情報共有の充実に努め、市内全体の食育を推進することができているか。 | |
| | | | | |

めざす姿

栄養豊かな給食、現代の多様な課題に対応する学校保健の充実で、健康の保持増進に努めます。

重要
ワード

学校園給食

食育

災害共済給付制度

災害見舞金

感染症対策

施策③ 学校保健体制の充実

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | |
|------|---|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度及び池田市学校災害見舞金について、保護者の認知度を高める。 ・感染症の流行期に向けた物品の備蓄や、正確な情報の共有に継続して取り組んでいく。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| 定性 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の感染拡大防止 ・制度利用の促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・関係各局との情報共有を行う。物品提供による感染症対策の充実を図ることができるか。 ・制度の周知徹底による利用促進を図ることができるか。 | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症り患者増加の時期を踏まえ、物品の配布等の対応、衛生管理の推進を行う。 ・日本スポーツ振興センターの災害共済給付対象の事象等の周知を図る。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| | 定性 | 市教委と学校園間の連携① | 感染症対策用品を適切に備蓄し、有事の際に滞りなく提供できる体制がとれているか。 |
| | 定性 | 市教委と学校園間の連携② | 関係機関と円滑に情報共有が行える体制がとれているか。 |
| | | | |

施策④ 健康管理のデータ化

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | |
|------|--|--|---------------------------------------|
| | 子どもの健康保持や感染症状況把握などのため、学校園において実施している健康診断に関する資料について、適切なデータ管理に努める。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| 定性 | 情報共有による健康管理の充実 | 情報の一元管理を行い、未受検者の減少、有所見者の発見の徹底を図ることができるか。 | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・市立学校園において、統一的な管理の設定を行う。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| | 定性 | 情報の整理及び共有方法の確立 | 市立学校園内で情報を適切に管理し、教育委員会と情報の共有ができていないか。 |
| | | | |
| | | | |



家庭・地域の教育力向上

施策① 学校・家庭・地域の連携・協働の推進

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|---|--|--|-----------------------------|
| | <p>同学年同士はもとより、異学年の子どもや地域の大人など多様な人々との交流を通じて、様々な経験を積み重ねることにより、社会規範や道徳心、他者とのコミュニケーション能力、自己抑制力等、社会性を身につける上で必要な態度を育てていくとともに、そういった地域全体で子どもの学びや育ちを支える体制づくりが求められている。</p> | | | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | |
| 定量 | 児童・生徒アンケート「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対する肯定意識の割合 | <u>現状（令和5年度）</u> 小学校 56.8% 中学校 29.5% | <u>目標（令和9年度）</u> 小学校 61.0% 中学校 37.4% | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 学校・家庭・地域による協働の取り組みを通じて、子どもたちに豊かな学びの機会を提供する。 地域人材等を活用した学校支援活動の充実を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進するため、地域と学校の連携協力体制を整備する。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定量 | 学校支援活動・キッズランド等に従事する地域住民の数 | <u>現状（令和5年度）</u> 1,602人 | <u>目標（令和9年度）</u> 1,700人 |
| | 定量 | 学校支援コーディネーターの活用時間 | <u>現状（令和5年度）</u> 1,849時間 | <u>目標（令和9年度）</u> 1,900時間 |
| 定量 | 地域学校協働活動推進員の委嘱人数 | <u>現状（令和5年度）</u> 0人 | <u>目標（令和9年度）</u> 20人 | |

施策② 持続可能な地域づくりのための人材育成

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|--|---|--|--|
| | <p>少子高齢化や人口減少が進む中で、多様化・複雑化する地域課題に対応していくためには、地域住民をはじめ、民間企業やNPO、大学等の多様な主体がつながり合い、協力し合って活動していくことで、持続可能な地域づくりにつなげていく必要があり、そうした活動の核となる地域人材の育成が求められている。</p> | | | |
| 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | |
| 定性 | 地域活動の担い手となる人材の発掘・育成 | 地域人材の発掘・育成に向けた取り組みを実施するとともに、そうした人々が相互に協力し合いながら主体的に活動することで、地域の課題解決に向けた取組みにつなげることができているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 地域住民等が問題意識や目的・目標を共有するとともに、必要なスキルやノウハウを身につける機会を創出する。 地域住民等が、自ら学んだ成果を生かし、地域課題の解決に取り組むことで、「学びと活動の好循環」を創出する。 行政や地域で活動する多様な主体同士が連携し、地域の課題解決に向けた新たな取組みにつなげる。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 人材育成環境の整備 | 研修や人材交流の場の創出、様々な主体により提供されるプログラムに関する情報発信等、人材育成環境の整備が進められているか。 | |
| 定性 | 学習成果の地域活動への還元 | 地域づくりのスキルやノウハウを学んだ人が実際に地域活動に参画することで、コミュニティの活性化や地域住民等の生きがいがいづくりにつながっているか。 | | |
| 定性 | 人材の相互交流とネットワークの強化 | 地域で核となる人材の相互交流を図るとともに、各人が所属する団体による地域活動のネットワークが形成できているか。 | | |

めざす姿

各校園を中心に地域と家庭との連携強化により、地域に根ざした協働的な環境を創ります。

重要
ワード

#教育コミュニティ

#地域学校協働活動推進員

#こども会

#放課後児童クラブ

#放課後子ども教室

施策③ 青少年の健全育成

| | | 指標設定の考え方 | | | | | |
|-------|---|---|---|------------|------------|-------|-------|
| 成果指標 | 青少年の豊かな体験活動の機会を提供したり、青少年を取り巻く有害環境対策や少年非行・被害防止に向けた啓発活動等を継続的に行ったりしていくことで、一人ひとりのWell-beingの実現機会を提供するとともに、そうした活動を持続可能にできる地域人材を育成する。 | | | | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | | | |
| | 定性 | 一人ひとりのWell-beingが実現できる学校外での学びの場の充実 | 青少年の豊かな体験活動の場や青少年が安全・安心に過ごせる環境が各地域に整備できているか。また、青少年が自身の意見を社会に表明したり実際に参画したりすることを通して自己実現を重ね、幸福感を持って一人ひとりが活動することができているか。 | | | | |
| | | 指標設定の考え方 | | | | | |
| 活動指標 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが地域の必要課題や、様々な体験活動に取り組む機会を提供する。 青少年が自らの意見を表明する機会を保障することで、社会参画や自己実現に必要な資質・能力の涵養を図る。 青少年指導員をはじめ、地域で青少年を見守る人に向けた研修を行い、青少年の健全育成に必要な地域人材を育成する。 | | | | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | | | |
| | 定量 | 市内小学生のこども会加入率 | <table border="1"> <tr> <th>現状 (令和5年度)</th> <th>目標 (令和9年度)</th> </tr> <tr> <td>12.9%</td> <td>15.0%</td> </tr> </table> | 現状 (令和5年度) | 目標 (令和9年度) | 12.9% | 15.0% |
| | 現状 (令和5年度) | 目標 (令和9年度) | | | | | |
| 12.9% | 15.0% | | | | | | |
| 定性 | 青少年の意見表明する機会の創出 | 青少年の幅広い世代が社会に対して自身の意見を表明できる場を提供するとともに、その意見を届ける仕組みを構築できているか。 | | | | | |
| 定性 | 研修会の実施 | 青少年の健全育成にかかる活動を支える大人世代に対し、研修会を定期的に開催し、学び合う場を提供することができているか。 | | | | | |

施策④ 放課後等における子どもの居場所づくり

| | | 指標設定の考え方 | | | | | |
|------------|--|---|---|------------|------------|---------|------|
| 成果指標 | 共働き世帯の増加や地域のつながりの希薄化などの社会的要因により、放課後等においてすべての子どもが自由かつ安全に過ごせる場所のニーズが高まっており、そうした場を学校施設の内外に確保することで、働きながら子育てしやすい環境の整備を進める必要がある。 | | | | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | | | |
| | 定性 | 放課後等における安全・安心な子どもの居場所の確保 | 放課後等の学校教育活動以外の時間において、子どもたちが安全・安心に過ごし、多様な体験・活動ができる場が確保できているか。 | | | | |
| | | 指標設定の考え方 | | | | | |
| 活動指標 | <ul style="list-style-type: none"> 留守家庭児童会の利用ニーズに対応するため、対象学年の拡大と児童会室や指導員の確保等の受け皿の整備を行う。 地域住民や企業・NPO等の参画のもと、全ての子どもに多様な体験・活動ができる機会を提供する。 青少年教育施設の指定管理者と連携し、学校以外で全ての子どもが安心して自由に過ごせる遊びや学びの場を確保する。 | | | | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | | | | |
| | 定量 | 留守家庭児童会の対象学年 | <table border="1"> <tr> <th>現状 (令和5年度)</th> <th>目標 (令和9年度)</th> </tr> <tr> <td>3 学年</td> <td>6 学年</td> </tr> </table> | 現状 (令和5年度) | 目標 (令和9年度) | 3 学年 | 6 学年 |
| | 現状 (令和5年度) | 目標 (令和9年度) | | | | | |
| 3 学年 | 6 学年 | | | | | | |
| 定量 | キッズランドの子どもの参加人数 | <table border="1"> <tr> <th>現状 (令和5年度)</th> <th>目標 (令和9年度)</th> </tr> <tr> <td>82.2人/回</td> <td>100人/回</td> </tr> </table> | 現状 (令和5年度) | 目標 (令和9年度) | 82.2人/回 | 100人/回 | |
| 現状 (令和5年度) | 目標 (令和9年度) | | | | | | |
| 82.2人/回 | 100人/回 | | | | | | |
| 定量 | 青少年教育施設の来館者数 | <table border="1"> <tr> <th>現状 (令和5年度)</th> <th>目標 (令和9年度)</th> </tr> <tr> <td>54,480人</td> <td>60,000人</td> </tr> </table> | 現状 (令和5年度) | 目標 (令和9年度) | 54,480人 | 60,000人 | |
| 現状 (令和5年度) | 目標 (令和9年度) | | | | | | |
| 54,480人 | 60,000人 | | | | | | |



生涯を通じた学びの推進

施策① 生涯学習推進体制の強化

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | |
|------|---|---------------------------------|---|
| | 社会教育施設を中心に関係機関や市長部局とも連携しながら学習機会の創出を図る。また、こうした機会について、様々な機会や媒体を利用した広報発信を行う。社会教育施設の老朽化への対応を行う。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| | 定性 | 誰もが生涯を通じて学習できる環境整備に向けた体制の強化 | 社会教育施設を中心に、誰もが学ぶことを身近に感じられる環境整備に向けた体制が強化されているか。 |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 社会教育施設を中心に安定的に学習機会の創出を図る。 学びに関する情報を入手しやすい環境づくりに向け、積極的な市民に向けた情報発信を推進する。 社会教育施設の老朽化への対応を行う。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| | 定性 | 生涯を通じて学習できる機会の創出 | 社会教育施設を中心に市民を対象とした各種講座が安定的に開催できているか。 |
| | 定性 | 学びに関する情報を入手しやすい環境づくり | 各施設・課のホームページ、市報、市公式SNS、その他各種媒体を通じて、学びに関する情報発信が活発に行われているか。 |
| 定性 | 社会教育施設の老朽化への対応 | 社会教育施設の耐震化、複合化、改廃を計画及び実施できているか。 | |

施策② 中央公民館の充実

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|--|-----------------------------|--|--|
| | 幅広い年齢の対象者のニーズに応じた講座を開催し、時代に応じた学びの場を提供することで、来館者の増加をめざす。また、美術展を開催することで、市民における芸術活動の成果発表の場とするとともに、展示を通じて、市民に美術を身近に鑑賞していただく機会を提供する。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定量 | 中央公民館の来館者数 | <u>現状（令和5年度）</u> 69,676人 | <u>目標（令和9年度）</u> 75,000人 | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 市民の生涯教育を推進する拠点施設として、大学をはじめ各種機関との連携により講座の充実を図るとともに、多様化するニーズに対応した生涯学習に関する情報を提供する。 利用者の利便性向上に向け、公共施設予約システムを導入し、施設使用申込のICT化を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定量 | 公民館講座の充実 | <u>現状（令和5年度）</u> 実施回数： 18講座 参加人数： 1,132人 | <u>目標（令和9年度）</u> 実施回数： 25講座 参加人数： 1,500人 |
| | 定性 | 生涯学習の場及び情報の提供 | 多様化するニーズに対応した講座の開催及び生涯学習の情報提供ができていないか。 | |
| 定量 | 公共施設予約システムの導入と活用 | <u>現状（令和5年度）</u> 未導入 | <u>目標（令和9年度）</u> システム予約割合 80% | |

めざす姿

住民が様々な学習活動に主体的に取り組めるよう、体制の強化と学習機会の充実を図ります。

重要
ワード

#生涯学習推進体制

#電子図書館サービス

#社会教育施設

施策③ 図書館・石橋図書館の充実

| | | 指標設定の考え方 | |
|------|--|----------------------------|---|
| 成果指標 | 池田市立図書館と石橋図書館の両館が連携を図りながら、それぞれの地域住民へ向けた特徴あるサービスを展開し、地域住民の来館意欲につながる各種図書館サービスの充実に努める。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 ※事務事業評価に準ずる |
| | 定量 | 図書館・石橋図書館の合計来館者数 | 現状（令和5年度） 600,419人 目標（令和9年度） ※600,500人 (640,000人) |
| | | 指標設定の考え方 | |
| 活動指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用促進につながる各種行事や講座等を開催する。 ・最新の情報検索ツール及び電子書籍の提供等、社会の変化に伴う市民のニーズに合致したサービスを展開する。 ・市民ボランティアが活動しやすい環境を整備し、市民の社会参加や交流の場を提供する。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| | 定量 | 行事实施回数・参加人数 | 現状（令和5年度） 実施回数： 212回 参加人数： 8,049人 目標（令和9年度） 実施回数： 220回 参加人数： 8,300人 |
| | 定量 | オンラインデータベース利用数・電子図書館のログイン数 | 現状（令和5年度） オンラインデータベース利用数 1,143回 電子図書館ログイン数 7,973回 目標（令和9年度） オンラインデータベース利用数 1,500回 電子図書館ログイン数 10,000回 |
| | 定量 | ボランティアの参加人数 | 現状（令和5年度） 参加人数： 2,124人 目標（令和9年度） 参加人数： 2,300人 |



社会教育・スポーツ活動の推進

施策① 社会教育活動の推進

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|---|---|--|--|
| | 市民の主体的な社会教育活動を支援するため、求めに応じて適切な助言や指導を行う。 本市において続いてきた特色ある音楽や伝統芸能に関する社会教育活動の自立した発展を支援する。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 市民主体の社会教育活動の醸成 | 社会教育活動が市民主体で行われているか。音楽や伝統芸能に関する社会教育活動が市民の手により受け継がれているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育関係団体による発表会やイベントが各団体会員により自立して行われていくよう支援する。 ・音楽や伝統芸能に関する社会教育活動が広がる環境を整える。 ・部活動地域移行後の中学生における文化環境を新規・拡大していく。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 行政や社会教育関係団体により開催されている発表会等の数 | 市や社会教育関係団体が運営する発表会の開催など、社会教育活動を身近に感じられる環境が醸成されているか。 | |
| | 定性 | 社会教育活動が広がる環境の整備 | 耐震基準不足により使用不可であるくれば音楽堂の耐震補強が完了し、市民が音楽や伝統芸能に関する社会教育を実践する場が整備されているか。 | |
| 定量 | 中学生が参加できる文化クラブ数 | 現状（令和5年度） 0 団体 | 目標（令和9年度） 10 団体 | |

施策② 生涯スポーツの推進

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|---|--|--|--------------------|
| | 池田市スポーツ振興条例に基づき、子どもから大人までスポーツに携われる環境の構築を目指す。また指導者の発掘や新しいスポーツニーズへの対応など、持続可能なスポーツ環境もめざす。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 子どもから大人まで誰でもスポーツができる環境の充実 | 年齢や性別、通っている学校や住んでいる地域に関わらず、スポーツができる環境が維持できているか。その環境が、特定の個人の熱意に依存せず、持続可能な運営方法をとっているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・競技スポーツ・生涯スポーツ問わず、様々な人がスポーツに参加できる機会を提供する。 ・部活動の地域移行後の中学生のスポーツ環境を維持・拡大していく。 ・スポーツの運営者や指導者を発掘し、持続可能な団体運営を促していく。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 行政や地域・任意団体等で実施されている大会・イベント数 | 市や社会教育関係団体が運営する大会など、いつでも・どこでも・誰でもスポーツを楽しめる環境が実現できているか。 | |
| | 定量 | 中学生が参加できるスポーツクラブ数 | 現状（令和5年度） 5 団体 | 目標（令和9年度） 40 団体 |
| 定性 | 持続可能な団体運営を行うための指導者発掘 | スポーツを楽しめる環境を維持していくため、担い手となるスポーツ団体、団体運営の核となる指導者を発掘・育成することができているか。 | | |

めざす姿

地域や関係団体との連携、施設の充実により、誰もが社会教育・スポーツ活動に日常的に親しめる環境づくりを推進します。

重要
ワード

#社会教育活動

#池田市スポーツ振興条例

#生涯スポーツ

#部活動の地域移行

#共生社会

施策③ スポーツ施設の充実

| | | 指標設定の考え方 | | |
|------|--|--------------------|--|-----------------------|
| 成果指標 | 池田市スポーツ振興条例に基づき、市民の健康及び体力の保持及び増進並びに豊かな市民生活及び元気で明るく活力のあるまち実現にむけ、安定的な施設の環境整備をめざす。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定量 | スポーツ施設の合計利用者数 | 現状（令和5年度） 475,097人 | 目標（令和9年度） 512,000人 |
| | | | | |
| | | 指標設定の考え方 | | |
| 活動指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・民間活力を活かした管理運営を行い、施設サービスの充実を図る ・老朽化に対応した計画的な施設の修繕が実施していく必要がある。 ・利用者ニーズを反映した施設運営を行い、利用者の満足度向上を図る。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 民間活力を活かしたサービスの充実 | 指定管理者と協働し、利用者のニーズの把握を行いながら施設の管理運営を行っているか。 | |
| | 定性 | 安定的な施設サービスの提供 | 限られた予算の中で、優先順位を定め計画的に修繕を行い、利用者のニーズに応えられているか。 | |
| | 定量 | アンケート調査における利用者の満足度 | 現状（令和5年度） — | 目標（令和9年度） 80% |

施策④ 共生社会の形成促進

| | | 指標設定の考え方 | | |
|------|--|-----------------|--|--|
| 成果指標 | スポーツ振興条例に基づく障がい者スポーツ振興や東京パラリンピックをきっかけに令和元年に登録した「共生社会ホストタウン」の理念を踏まえながら、障がいの有無などに関係なく、誰でも活躍できる共生社会の理解促進をめざす。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 誰でもスポーツできる環境の構築 | 障がいの有無に関係なく、誰でもスポーツに親しめる環境を構築できているか。 | |
| | | 指標設定の考え方 | | |
| 活動指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの有無に関係なく、誰でもスポーツができる機会の充実をめざす。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 共生的にスポーツを楽しむ機会 | 障がいの有無に関係なく、スポーツ施設等でスポーツが楽しめる機会を提供できているか。 | |
| | 定性 | 地域で活動する団体への支援 | 障がい者も参加できる活動を行っている地域に根差した団体が自主自立した活動ができるよう支援が行っているか。 | |
| | | | | |



歴史・文化遺産の保存と活用

施策① 郷土の歴史・文化遺産の保存と活用

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | |
|------|---|--|--|
| | 各種資料の調査研究、収集保存を進めるとともに、文化財の公開や展示を行い、より良い魅力の発信をめざす。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| | 定性 | 郷土の歴史・文化遺産の保存と活用 | 市内にある文化遺産の把握。把握した成果をどのように公表しているか。 |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 郷土資料の把握のため、継続的に調査・研究を行う必要がある。 調査・研究で得た情報は、市民に還元する必要がある。 郷土の歴史・文化遺産を将来に引き継ぐ。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| | 定性 | 文化遺産の調査・研究 | 調査研究などを行い価値のほりおこしや専門家などによる学術調査が継続的に事業実施できているか。 |
| | 定性 | 文化遺産に関する情報を入手しやすい環境づくり | 説明版やホームページの更新・文化財公開事業が実施できているか。 |
| 定性 | 池田市内における文化財の適切な保存 | 指定文化財などの状態を把握し、必要に応じて、修理などの処置を実施し保存できているか。 | |

施策② 『池田市史』編纂成果の市民への公開

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | | |
|------|---|---|----------------------|------------------|
| | 将来の編纂に引き継ぐため資料の収集・整理・保存を継続するとともに、市の歴史を広報誌やパネル展などで紹介し、編纂の成果を市民に還元することをめざす。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| 定性 | 『池田市史』編纂成果の市民への公開 | 資料の継続的な収集・整理・保存がなされ、広報誌やパネル展で『池田市史』編纂の成果と市の歴史が紹介されているか。 | | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 資料を収集・整理・保存し、将来の編纂に引き継ぐ。 市史編纂の成果を市民に還元するとともに、市の歴史について分かりやすく紹介する。 歴史民俗資料館に市史編纂業務を移管し、池田市の歴史を将来に向けて継承していく体制を強化する。 | | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 | |
| | 定性 | 資料の収集・整理・保存 | 資料の収集・整理・保存を継続しているか。 | |
| | 定量 | パネル展・講座開催の充実 | 現状 (令和5年度) 2回 | 目標 (令和9年度) 4回 |
| 定量 | 池田市史の販売冊数 | 現状 (令和5年度) 51冊 | 目標 (令和9年度) 100冊 | |

めざす姿

歴史・文化遺産の保存と活用を進め、市民の郷土への愛着が深まるよう努めます。

重要
ワード

#池田市歴史文化基本構想

#『池田市史』

#歴史・文化遺産

施策③ 歴史民俗資料館の充実

| 成果指標 | 指標設定の考え方 | | |
|------|---|--|--|
| | 展示、教育普及事業（出前授業等）、資料公開などを通して、池田の歴史・文化の特性を広く市民に伝えていく。また、貴重な歴史・文化遺産の長期的な保存継承のために資料整理を進めるとともに、資料管理や保存環境の整備をめざす。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| 定性 | 歴史民俗資料館の充実 | 郷土の歴史・文化を伝える役割を果たすとともに、資料整理など着実に歴史・文化遺産の保存、継承がなされているか。 | |
| 活動指標 | 指標設定の考え方 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 池田の歴史・文化の特性を広く市民に伝える。 郷土の歴史・文化に関する資料の長期的な保存継承をめざす。 所蔵資料の多様な活用方法を模索する。 | | |
| | 種類 | 指標の名称 | 評価の基準 |
| | 定性 | 展示等の実施 | 池田市の歴史・文化の特性を伝える展示や教育普及事業（出前授業等）を実施できているか。 |
| | 定性 | 資料の整理と保管場所の整備 | 資料整理を進めて効率的な保管や保存環境の改善を実施できているか。 |
| 定性 | 収蔵資料のデジタルアーカイブ化 | 収蔵資料の管理システムの導入やデジタルアーカイブの公開、運用が行えているか。 | |